

長岡崇徳大学

年報



令和元・2年度 合併版

長岡崇徳大学

看護学部看護学科

Nagaoka Sutoku University

The Department of Nursing

はじめに

長岡崇徳大学は教育による人間と社会の成長を大切にする米百俵精神が脈々と流れる長岡の地で、看護学の最高学府として次世代の医療界をになうプロフェッショナルを育成します。

本学は、看護師、保健師の国家試験受験資格が得られる 4 年制ならではの充実した教育は言うに及ばず、人間性が高められるような教育の場となることを目指しています。あたたかな心で弱者、病者、障がい者を支援し、寄り添える豊かな感性を育むことで、やさしさと信頼ある人として成長されることを望んでいます。ときに時代のパイオニアとして活躍し、時々刻々変化する医療最先端に対応しながら、地域と社会から頼りにされるような人に育って欲しいと願っています。

本学は開学後 2 年が経過し、特に 2020 年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大で世界中が脅威にさらされ、医療環境にも大きな変革が起きた年でした。ここで開学後の 2 年間の活動を振り返り、完成年度に向けて改めて教育・研究や地域貢献活動に向き合いたいと存じます。この年報では、2 年間の大学全体の様相、教職員一人ひとりの役割・活躍・成果等が掲載されています。本学に対する忌憚のないご意見をうかがえれば幸甚です。

長岡崇徳大学 学長 森 啓

目 次

はじめに

I	大学の概要/沿革	1
II	大学の基本理念	2
2.1	大学の理念	2
2.2	教育目的	3
2.3	教育目標	3
2.4	学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)	3
2.5	教育課程の編成と特色	4
2.6	入学者の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)	5
2.7	地域の特性を活かした実践者の育成	5
III	組織	7
3.1	大学組織図	7
3.2	教員数	8
IV	学年暦	9
V	管理運営	11
5.1	教授会	11
5.2	大学運営会議	11
5.3	各種委員会活動	12
5.3.1	学長諮問委員会	12
5.3.1.1	大学将来構想委員会	12
5.3.1.2	教員人事委員会	15
5.3.1.3	自己点検・評価委員会	16
5.3.1.4	ハラスメント対策委員会	17
5.3.2	教授会所掌委員会	19
5.3.2.1	教務委員会	19
5.3.2.2	入試委員会	21
5.3.2.3	学生委員会	24
5.3.2.4	広報委員会	26
5.3.2.5	キャリア支援委員会	28

5.3.2.6	学術委員会	29
5.3.2.7	FD 委員会	30
5.3.2.8	研究倫理委員会	32
5.3.2.9	地域貢献委員会	34
5.3.2.10	大学連携委員会	36
5.3.2.11	国際交流委員会	38
5.3.2.12	実習委員会	39
5.3.2.13	国家試験対策委員会	41
5.3.2.14	保健衛生委員会	42
5.3.2.15	継灯式委員会	43
5.3.2.16	ボランティア活動委員会	44
5.3.2.17	災害看護委員会	45
5.3.2.18	シミュレーション委員会	46
5.3.2.19	卒業研究委員会	47
5.4	職員	48
VI	大学の公開と広報	49
6.1	講演会等	49
6.1.1	学外講師による講演会等	49
6.1.2	本学教員による講演会・出前授業等	50
6.2	広報活動	52
6.2.1	各種広報物の作成	52
6.2.2	ホームページの管理・運営	52
6.2.3	オープンキャンパスの実施	52
6.2.4	進路相談会への参加	52
6.2.5	高校教諭対象大学説明会の実施	52
6.2.6	メディア広報、展示会	53
VII	研究活動	54
7.1	研究活動成果・社会貢献（2020年度のみ）	54
7.1.1	書籍(著書)	54
7.1.2	研究論文	54
7.1.2.1	研究論文・筆頭	54
7.1.2.2	研究論文・共著	54
7.1.3	その他原稿	54
7.1.4	学会・研究会発表	54

7.1.5	社会貢献	55
7.1.6	その他(受賞等)	57
7.2	外部資金の獲得関連	57
7.2.1	科学研究費助成事業(日本学術振興会)	57
7.2.1.1	科学研究費補助金、学術研究助成基金助成金	57
7.2.1.2	その他外部資金	58
VIII	図書館	59
8.1	図書館	59
8.1.1	2019年度(令和元年度) 利用・受入集計	59
8.1.2	2020年度(令和2年度) 利用・受入集計	61
8.2	図書館運営委員会	63
IX	学生関係	66
9.1	入学定員・収容定員	66
9.2	選抜区分別募集定員(2021年度入学者向入試)	66
9.3	入学選抜試験選考結果	66
9.4	在籍学生数(2021.3.31現在)	67
9.5	学生生活	67
9.5.1	学生ポータルサイト	67
9.5.2	健康管理と生活相談	67
9.5.3	学友会活動	68
9.5.4	学生委員会実績報告(抜粋)	68

編集後記

I 大学の概要/沿革

- (1) 設置者
学校法人悠久崇徳学園

- (2) 大学名
長岡崇徳大学

- (3) 大学の位置
新潟県長岡市深沢町 2 2 7 8 番地 8

- (4) 管理運営組織
理事長 田宮 崇
学 長 森 啓

- (5) 設置学部・学科
看護学部看護学科（入学定員 80 名/収容定員 320 名）

- (6) 沿 革
平成 4 年 4 月 社会福祉法人長岡福祉協会『長岡福祉専門学院』（介護福祉士養成）開校
平成 7 年 4 月 長岡福祉専門学院に看護学科を設置し、『長岡看護福祉専門学校』に校名変更
平成 17 年 4 月 学校法人崇徳医療福祉学園設置認可、同校の設置者同学園に変更
平成 22 年 1 月 学校法人崇徳医療福祉学園と学校法人長岡総合学園の新設合併認可
平成 22 年 4 月 学校法人悠久崇徳学園 新設
平成 26 年 7 月 学校法人悠久崇徳学園から学校法人長岡総合学園を分離
平成 30 年 8 月 長岡崇徳大学 設置認可
平成 31 年 4 月 長岡崇徳大学・看護学部看護学科 開設

Ⅱ 大学の基本理念

2.1 大学の理念

長岡崇徳大学は長岡を中心とした中越地域市民の医療と福祉を支えてきた「長岡の医療と福祉の里」の新しいメンバーとして設立されました。いわば地域密着型の大学であり、新潟県、長岡市及び周辺市町村の皆様の支援を受けて生まれました。本学の設立を語る時、長岡藩士・小林虎三郎による教育にまつわる米百俵精神を忘れることができません。ひもじい思いをしても、子弟に教育を受けさせる重要性は、豊かではない時代だけではなく、豊かになった今でも変わらぬ珠玉の魂ではないでしょうか。これは長岡だけの誇りではなく、おそらく勤勉な日本人の芯となっている精神であると信じて疑いません。

長岡崇徳大学の大学名にある「崇徳」には、本学創立者田宮崇の父であり浄願寺住職でもあった田宮麟氏からの薫陶が受け継がれております。崇徳の二文字は、鎌倉時代に法然上人（1133年～1212年）の説いた言葉「崇徳興仁 務修礼讓」の一節に由来しますが、その意味は徳をあげ、仁を尊び、礼節を大切にすることを説いたものです。

この「徳」の概念は、洋の東西を問わず哲学、宗教の中心的課題の一つであり、倫理的、道徳的善に対する意志の恒常的志向性、ないしは善を実現する恒常的能力を意味することから人が求めるべき究極の理想規範ともいえます。徳の重要性については、古くはギリシャの哲学者プラトン（紀元前 427 年～紀元前 347 年）が正義、賢明、節制、剛毅の四つの徳をあげ、人間の求めるべき道と考えました。孔子（紀元前 552 年～紀元前 479 年）もまた儒教の中で仁、智、礼、信、忠、孝、義などの細目で徳を説いております。

一方、学問や大学の歴史に目を転じますと、哲学、神学が学問の源となることが多いようです。つまり、人間本来の向かうべき崇高な目標として徳が議論されてきたことが分かります。精神の修養によってその身に得たすぐれた品性と定義する場合がありますが、自らの修練によるものであるか否かを問わず身についたものでなければならぬ絶対的存在としての徳が尊ばれています。その結果、徳 *virtue* の理念追求から、真理 *veritas* を探究する自然な流れで今日の自然科学や人文社会科学が発展してきました。

長岡崇徳大学は、崇徳の理念に基づき、生命の尊厳を基盤とする豊かな人間性を醸成し、自己及び他者への深い洞察力をもって自己成長への志向を育むとともに、基礎的・先進的な知識と技術を教授することにより、多様に変化する人々の健康と福祉のニーズに柔軟に応えうる人材を育成します。

2.2 教育目的

長岡崇徳大学は、「崇徳」の理念とこれまでの看護教育の実績を受け継ぎ、中越地域に密着した看護専門職者を育成します。教育目的は、「生命の尊重を基盤とした豊かな人間性と高い倫理観の涵養を図るとともに、専門的知識・技術を修得させ、科学的根拠に基づいた判断力と問題解決能力を養い、多職種と連携・協働して地域社会における保健・医療・福祉の向上に貢献できる看護専門職者を育成する」とし、新潟県中越地域の特性を活かした地域密着型大学を目指しています。

2.3 教育目標

本学は、看護師、保健師(養護教諭二種免許状)を養成する高等教育機関です。特に地域医療、地域包括ケアシステムの考え方に着目し、「多職種と連携・協働できる看護専門職者の育成」を教育目的に明示しています。この目的を達成するための教育目標を以下に示します。

- 1) 幅広い教養に支えられた豊かな人間性と倫理観を涵養するとともに、人々のもつ多様な価値観を尊重し、共感的理解をもって行動できる能力を育成する。
- 2) 看護に必要な知識・技術を修得させ、看護を実践するための科学的な根拠に基づいた判断力と問題解決能力を育成する。
- 3) 保健・医療・福祉・介護領域において多職種と連携・協働し、看護職の調整的役割を果たす能力を育成する。
- 4) 看護学への関心を深め、探求し続けるための批判的思考力、創造力、及び基礎的研究能力を育成する。
- 5) 多様な地域社会の特性に基づいた看護実践と地域的・国際的視野で保健・医療・福祉の向上に貢献できる能力を育成する。

2.4 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

育成する人材像は、「豊かな人間性と高い倫理観をもつ人」「看護実践力のある人」「連携・協働できる人」「探究力のある人」「地域的・国際的視野のある人」です。学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を以下に示します。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

(1) 豊かな人間性と高い倫理観

- ① 多様な文化や価値観を理解するために幅広い教養を身につけ、共感的な行動ができる。
- ② 人間の尊厳と権利を倫理的視点から考える態度を身につけている。
- ③ 一人ひとりの自己決定を尊重し、擁護する態度を身につけている。

(2) 看護実践力

- ① 看護を安全に実施するための基本的な知識・技術・態度を身につけている。
- ② 成長・発達段階と健康レベルに対処できる知識・技術・態度を身につけている。
- ③ エビデンスに基づいた看護を実践する能力を身につけている。
- ④ 自己の看護実践を振り返り、次の援助に活かす能力を身につけている。

(3) 連携・協働力

- ① 地域社会のネットワークの一員として、情報を共有し参加できる。
- ② 多職種の役割を理解し、連携・協働することができる。
- ③ 変化する保健医療福祉制度の中で看護の果たす役割を理解する。

(4) 探求力

- ① 看護や医療への関心を深め、看護学を探求し続ける意欲を持つことができる。
- ② 多面的な視点から看護を分析し、追及する基礎的研究能力を身につけている。

(5) 地域的・国際的視野

- ① 地域的・国際的視野を持ち、地域社会の特性と人々の健康ニーズを理解する力を身につけている。
- ② 看護職者として、専門的知識を地域社会の発展のために活かすことができる態度を身につけている。

2.5 教育課程の編成と特色

1 教育課程編成の考え方

本学では、教育目的・目標、ディプロマ・ポリシーを達成するために教育課程を構成するとともに、看護師、保健師の国家試験受験資格を取得できるよう「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」に準拠し教育課程を編成しています。本学の教育課程は【基礎教育科目】と【専門教育科目】の2つに区分し、さらに、【専門教育科目】は【専門基礎科目】と【専門科目】の2つの科目区分としています。【基礎教育科目】は、[思考力養成][表現力養成][人間力養成][社会力養成][人間の理解][社会の理解][学習力養成]の7つの群から科目を構成し、【専門基礎科目】は[人体の構造と機能][疾病の成り立ちと回復促進][健康と社会のシステム]の3つの群から、【専門科目】は、[看護の基本][生涯発達と看護][地域社会と看護][看護の統合と実践][特論]の5つの群から科目を構成しています。科目の編成にあたっては、看護専門職として必要な基礎的な内容から、専門的・応用的な内容へと段階的に学べるよう組み、それぞれの教育が有機的に連動し体系的に学修できるよう編成しています。

2 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

- (1) 豊かな人間性と倫理観を身につけ、共感的理解をもって行動できるための基盤となる科目、思考力、創造力を高めるための基盤となる科目を【基礎教育科目】に配置する。
- (2) 人々を取り巻く社会環境について理解を深め、幅広い視野で学際領域の知識の応用と社会

- 力養成のための科目を【基礎教育科目】に配置する。
- (3) 看護実践の科学的根拠となる知識基盤として、人間の健康と疾病、健康と社会のシステムについて学ぶ科目を【専門基礎科目】に配置する。
 - (4) 看護の基本的な考え方や援助方法に関する科目を【専門科目】の[看護の基本]に置き、看護の対象を生涯発達の見点で捉え、発達対象別の看護の特徴を理解するための科目を【専門科目】の[生涯発達と看護]に配置する。
 - (5) 地域の特性と地域包括システムについて理解し、地域で生活する人々の健康問題と看護、災害時の看護に関する科目、保健師養成課程に関する科目を【専門科目】の[地域社会と看護]に配置する。
 - (6) 知識・技術を統合し、看護の専門性を探究、発展させる科目を【専門科目】の[看護の統合と実践][特論]に配置する。

2.6 入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

- (1) 柔軟性と協調性を有し、人との良好な関係を保つことのできる人
- (2) 看護専門職として地域の医療、保健の向上のために貢献したい人
- (3) 看護を学ぶ上で基盤となる基礎学力のある人
- (4) 健康と生活に関心があり、新たな課題に向かって自ら進んで学ぼうとする人
- (5) 自分の考えや行動に責任を持ち、自分の考えを伝えることができる人

2.7 地域の特性を活かした実践者の育成

1 災害時に適切な医療・看護を提供できる人材

2004年10月に中越地震、2007年7月に中越沖地震が発生しました。震源地となった長岡市、柏崎市、出雲崎町、刈羽村をはじめとして多くの市町村が被害を受けました。被災地において、看護職自らも被災体験をしながら、住民が求めている支援活動に奔走しました。今日、自然災害は、国内に留まらず世界的な課題でもあります。災害看護において、必要とされていることは何かを的確に把握し、適切かつ迅速に対応することが重要です。予期せぬ事態に備えた災害看護の取り組みを体系化し、それらを社会に還元することが求められています。

2 緩和ケア・看取りの看護を実践できる人材

2025年、超高齢化社会の到来に伴う「多死社会」を迎えます。老いと死に向き合い、病院ではなく自宅や多様な施設など、住み慣れた場所での看取りが必要とされています。医療法人崇徳会の長岡西病院では緩和ケア病棟を平成5年4月に開設しました。日本で初めての仏教の知恵を活用したビハラー病棟として、地元のボランティア組織とも連携し、多くの患者の最期に関わってきました。今後は病院から地域へ、多職種と連携・協働しながら、患者・家族に寄り添うケアを実践していく必要があります。

3 認知症、老人看護を実践できる人材

新潟県の高齢化率の進展は全国平均より高く、それに伴う認知症患者が増えています。社会福祉法人長岡福祉協会・高齢者総合ケアセンターこぶし園は、昭和 57 年 4 月に新潟県内では 20 番目、長岡市では 2 番目の特別養護老人ホームとして開設されました。運営方針は、「24 時間 365 日連続するケアの提供」「サポートセンター構想を推進してその人らしい普通の暮らしを支える」「サテライト型居住施設を展開して施設から地域社会に生活を戻す」「小規模多機能型居宅介護を開設して在宅の中重度者を定額で介護する」です。今日、サポートセンターは、各地域に設立され 18 か所に及び、全国の地域包括ケアシステムのモデルとして評価されています。また、医療法人崇徳会・田宮病院では、精神科医療を中心としながら、認知症患者の治療にも力を注いでいます。認知症病棟では、社会に戻ってもらうべく、こぶし園とタイアップし「すどく・こぶし認知症ネット」を実施しています。65 歳以上の高齢者の 16%に認知症が発生していると言われます。高齢化の進展とともに認知症看護は必須の課題です。

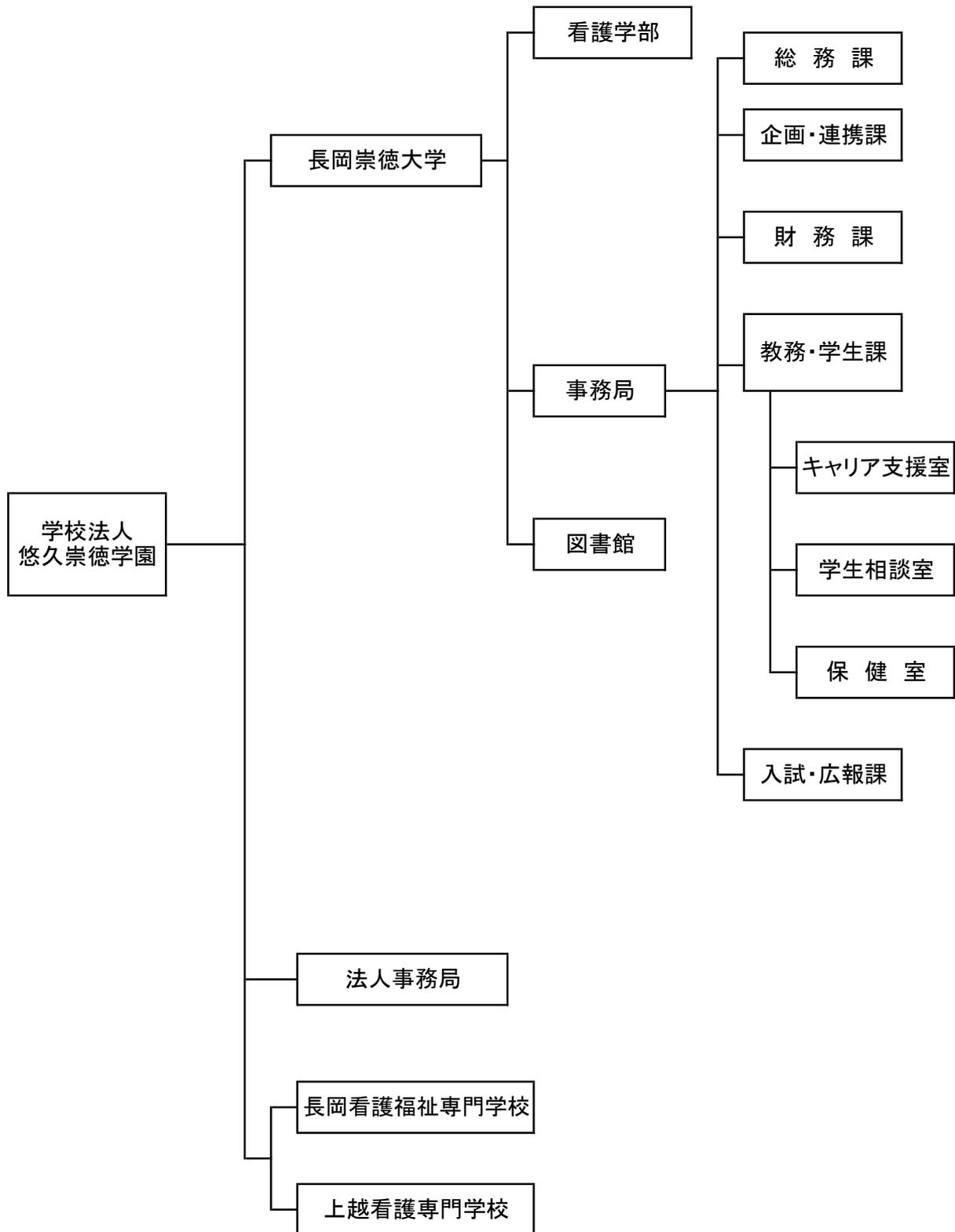
4 精神看護学を基盤に、人々の心の健康にかかわるケアを実践できる人材

医療法人崇徳会・田宮病院は、479 床の精神科病院で、中越・上越地域における基幹病院です。急性期から慢性期に至り「患者一人ひとりの社会復帰を援助する伴走者としての医療」を方針としています。地域を巻き込んだ長岡モデルとして「多職種参加の SDM（シェアード・ディジジョン・メイキング）によるチーム医療（精神科版地域包括ケアシステム）」を実践しています。精神的健康は単に精神疾患に起因するものだけではなく、人々が生きる過程で直面する多様な心の問題を含んでいます。病院・学校・職場・地域という様々な場で生活する人々の心の健康の保持・増進、心の問題を抱える人々が社会的資源を活用しながら、本来の生活のあり様やその人らしさを取り戻せるよう援助することが求められています。

5 地域的・国際的な視野をもって地域に貢献できる人材

グローバルな時代を迎え、日本における在留外国人は年々増えています。新潟県の在留外国人では、中国が一番多く、次いでフィリピン、韓国の順です。在留の多くは、永住者、留学・就学、研修・特定活動です。また、近隣には長岡技術科学大学があり、留学生の往来も多くみられる地域です。地域内外の市民、さらに増加しつつある外国人と触れ合う機会を積極的に取り入れ、地域の多様な医療ニーズに応える看護力が求められています。

3.1 大学組織図



3.2 教員数

○専任教員配置数

令和3年3月現在

科目区分	専門領域	教授	准教授	講師	助教	合計
基礎教育		1	0	0	0	1
専門基礎		0	0	0	0	0
看護の基本	基礎看護学	1	0	1	1	3
生涯発達と看護	成人看護学	2	1	1	0	4
	老年看護学	2	0	1	1	4
	母性看護学	2	0	0	0	2
	小児看護学	1	0	0	2	3
	精神看護学	3	0	0	1	4
地域社会と看護	在宅・公衆衛生看護学	1	0	0	2	3
	災害看護学	0	1	0	0	1
合計		13	2	3	7	25

○専任教員の職位別学位保有状況

		教授	准教授	講師	助教	合計
博士		8	1	1	0	10
修士		5	1	2	7	15

○助手 2名

IV 学年暦

<2019 年度>

4月4日	入学式（会場：ホテルニューオータニ長岡）
4月5日	オリエンテーション
4月8日	前期授業開始、健康診断
4月9日	履修指導
4月10日	ユニフォーム採寸
4月15日～19日	履修登録期間
5月2日	開学記念日
6月15日	オープンキャンパス
7月13日	オープンキャンパス
7月29日～8月9日	基礎看護学実習Ⅰ 実習期間
8月6日	オープンキャンパス 新潟市開催（会場：ガレツソホール）
8月25日	徳樹祭（学園祭）、オープンキャンパス 学園祭と同日開催
8月28日～9月3日	定期試験期間
9月14日	オープンキャンパス
9月17日～19日	追・再試期間
9月21日	AO選抜Ⅰ期
9月30日	後期オリエンテーション
10月1日	後期授業開始
10月8日～15日	履修登録期間
10月12日	保護者会
10月19日	オープンキャンパス
10月26日	AO選抜Ⅱ期
11月16日	公募・指定校推薦・新潟県特別選抜試験Ⅰ期
11月23日	オープンキャンパス
12月14日	公募・指定校推薦・新潟県特別選抜Ⅱ期
12月25日～1月8日	冬期休暇期間
1月18日～19日	大学入試センター試験（学外）
2月1日	一般入試、大学入試センター試験利用選抜Ⅰ期
2月12日～18日	定期試験期間
2月29日	一般入試、大学入試センター試験利用選抜Ⅱ期
3月16日～31日	春期休暇期間
3月28日	オープンキャンパス（コロナのため中止）

<2020 年度>

4月3日	入学式、オリエンテーション（会場：長岡崇徳大学）
4月6日	ユニフォーム採寸、健康診断、オリエンテーション
4月7日	前期授業開始、1年生施設見学、2年生健康診断
4月14日～17日	履修登録期間
5月2日	開学記念日
5月23日	継灯式（コロナのため中止）⇒2021年度に実施する
5月30日、6月13日	オープンキャンパス（コロナのため中止、WEB-OC開催）
6月16日	高校教員向け説明会
7月18日	オープンキャンパス
7月27日～8月7日	基礎看護学実習Ⅰ 実習期間
8月8日	オープンキャンパス
8月23日	徳樹祭、オープンキャンパス（コロナのため中止）
8月26日～8月28日	定期試験期間
9月5日	オープンキャンパス
9月10日～11日	追・再試期間
9月26日	総合型選抜Ⅰ期
9月30日	後期オリエンテーション
10月1日	後期授業開始
10月3日	保護者会
10月8日～13日	履修登録期間
10月10日	オープンキャンパス
10月24日	総合型選抜Ⅱ期
10月31日	オープンキャンパス
11月14日	公募・指定校推薦・新潟県特別選抜Ⅰ期
12月12日	オープンキャンパス
12月19日	公募・指定校推薦・新潟県特別選抜Ⅱ期
12月25日～1月8日	冬期休暇期間
1月16日～17日	大学入試センター試験（学外）
2月1日～26日	基礎看護学実習Ⅱ 実習期間（コロナ禍のため学内にて実施）
2月6日	一般選抜入試、大学入試センター試験利用選抜Ⅰ期
2月8日～12日	定期試験期間
2月27日	一般入試、大学入試センター試験利用選抜Ⅱ期
3月16日～31日	春期休暇期間
3月27日	オープンキャンパス

V 管理運営

5.1 教授会

教授会は、「長岡崇徳大学 教授会規程」に則り、学長、学部長、専任の教授、准教授、講師及び助教で構成し、教育及び研究に関する重要事項を審議するとともに、その円滑な遂行を図ることを目的としており、原則として、毎月1回定例で開催したほか、入試判定等、必要に応じて適宜開催した。また、陪席として教員助手、事務局長、事務局各課長が出席した。

2019年度開催回数：19回

2020年度開催回数：18回

5.2 大学運営会議

構成員：学長、学部長、教務委員長、学生委員長、入試委員長、広報委員長、図書館長、事務局長、その他学長が指名する職員

事務局（書記）：総務課長

毎月1回定例で開催した。

大学運営会議は、議長（学長）のもとに、「長岡崇徳大学 大学運営会議規程」に則り、大学の重要事項を審議するために設置することとし、審議事項は、①学則その他重要な規則の制定、改廃に関する事項、②大学の教育研究に関する事項、③大学の管理運営に関する事項、④学部その他の機関の連絡調整に関する事項、⑤その他重要事項としている。

5.3 各種委員会活動

5.3.1 学長諮問委員会

5.3.1.1 大学将来構想委員会

委員：中村教授（学部長）、飯吉教授、山崎准教授、広井准教授、目黒講師、角山助教
高島教授（2020～）、板山教授（2020～）

事務局：2019 船越担当、猪浦担当

2020～西川 事務局長、内山 企画連携課長

2019 年度提案（5月14日開催：1回のみ）

①組織：人材育成

- （1）4年後の教員確保のために大学院の設置
- （2）研究、論文作成の促進
- （3）外部研究費の申請、獲得

②組織：方向性

- （1）特定医療行為のできる看護師の養成の検討
- （2）助産師養成

③定員確保

- （1）学バスの検討
- （2）駅前キャンパスの設置
- （3）学生寮の設置

④その他

- （1）地域基幹病院との連携
- （2）行政との連携
- （3）社会人入学、通信制教育の検討

森委員長からの提案を基に、審議した結果、本学のマル合教員確保等に向けて4年後の2023年に大学院の設置を目指し、目指す大学院像を検討していくことを目標とすることとした。

2020 年度提案（全 3 回開催）

1. 7 月 7 日開催

【長・中期目標計画（案）（2019 年度～2022 年度）について】

(1)学長より、長・中期目標・計画（案）が方針として出され、事務局より下記のとおり説明があった。

- ・大学評価審査機関（大学基準協会）の認証評価を受ける予定で、完成年度後に中間評価を予定している。
- ・基本項目及び活動課題については、大学基準協会の審査項目に準じた形でとりあげ、現状各々の委員会に置いて活動を行っており、自己点検・評価委員会において評価がなされている。

あらためて学長より、長・中期目標計画を基に、本委員会で「大学院の設置」について議論を継続していくこととした。

○下記については今後の委員会検討事項とした。

- ・理事長が大学重点項目としてあげている「災害・終末期・認知症・地域包括ケア」の 4 項目について、このことと大学院設置をどう結び付けるか。
- ・認可申請にあたってはニーズ調査も必要となる。
- ・教員確保が課題である。現専任教員も含めての教員組織の検討。
- ・次回委員会までに、大学院設置基準について調査し、事務局より報告することとした。

2. 8 月 6 日開催

【大学院看護学研究科（仮）の設置について】

配付資料に基づき、事務局より大学院設置基準、大学設置基準の教員数についての説明があり、大学院設置に当っては、専攻ごとに研究指導教員数 6 名に加え、研究指導補助教員数 6 名の基準数が定められていることの説明があった。

また、現在の大学教員数及びマル合教員等の状況の説明があり、どのような大学院を作るかによって、必要教員も変わってくることの説明があった。

3. 10 月 22 日開催

○事務局より、今年の 8 月に実施の自己点検・評価委員会で検討された中長期計画 8 項目と、本年度 7 月に実施の大学将来構想委員会で提案された長・中期目標計画（2019～2022 年度）を比較表として説明。また、自己点検・評価委員会において、改めて大学将来構想委員会（以下、「本委員会」）を開催して「長・中期目標計画（2019～2022 年度）」を再確認することの経緯を説明。

○森学長より、本委員会では、大学基準協会の認証評価を見据えた形で大きな枠組みを作り、将来構想に結びつけていきたい旨、説明。

○学部長より、この「大学将来構想委員会」は学長の諮問機関であり、本委員会の役割として、中長期計画については、学長が本委員会の各委員の意見を集約したうえで、大学運営会議において審議されることの説明があった。

○今後の進め方

・配付資料「長岡崇徳大学 中長期計画の比較表」については、項目に将来構想があり意味不明であり、具体例の内容も誤解を招く記載箇所があることから、破棄することになった。

・学長より今後の進め方について、大学基準協会の評価基準1～10を踏まえた上で、本委員会において出された意見を集約し、長中期目標の案を作成する。それを大学運営会議において提案し検討を行っていくこととした。

5.3.1.2 教員人事委員会

委員：中村教授（学部長）、各専門領域代表者 7 名

事務局：西川 事務局長、内山 企画連携課長

活動内容：令和 3 年 1 月 19 日開催

1. 教員人事委員会、教員選考委員会

まず、事務局より 3 規程（教員人事委員会規程、教員選考規程、教員資格審査規程）に基づき今後の議事を進行する旨、説明があった。

次に学部長より以下のとおり公募結果の報告、「審査委員会」の設置、担当教員について、今後のスケジュールも含め説明があった。また、本日の委員会では候補者の助手 2 名について、出席者で検討が行われ、2 名とも教員候補者とすることで承認された。

■公募結果

- ・母性看護学領域（助教） 1 名応募
- ・老年看護学領域（教授又は准教授） 応募なし
- ・老年看護学領域（講師又は助教） 1 名応募
- ・助手 2 名応募

■審査委員会の設置と担当教員

- ・母性看護学領域 主査：柳原教授、他領域：金子教授、加固教授
- ・老年看護学領域 主査：袖山教授、他領域：飯吉教授、倉島教授

■今後のスケジュール

『審査委員会』で個人調書等の確認後、結果を 1 月 29 日までに学部長へ報告

2 月 3 日 大学運営会議で報告

2 月 10 日 教授会審議 候補者決定 候補者決定を受け、面接日程調整

2 月中旬 人事面接 面接後、結果を教員人事委員長（学長）に提出
教員候補者へ面接結果を郵送

3 月 文部科学省 教員 AC 書類作成・提出

4 月 1 日 採用

5 月末 教員 AC 審査結果判明 審査結果を報告

6 月以降 専任教員 担当科目 可

2. その他

倉島教授より、基礎看護学実習や演習に関する今後の見通しについて説明があった。次年

度は専門領域の実習も始まることから、助教、助手の教員の配置等にも影響があり、教員の計画的な採用が必要との意見で一致した。

5.3.1.3 自己点検・評価委員会

委員：中村教授（学部長）、全委員長

事務局：西川 事務局長、内山 企画連携課長

○2019 年度活動内容：全 10 回開催

- ・自己点検・評価委員会規程の確認
- ・自己点検・評価の基本的指針、教員活動点検・評価指針、自己評価書の検討
（森学長より原案提示）
- ・年度活動報告書、個人活動報告書について
- ・中長期目標の確立
- ・予算化計画（開学初年度は実績を入れ、次年度予算検討の資料とする）
- ・「看護学部・委員会活動計画と評価」評価表案（中村学部長より提示）
- ・活動評価シート（個人活動報告書）の様式・項目の検討
- ・大学基準協会認証評価について・・・学長より提示されている基本的指針との擦り合わせ
- ・認証評価受審に向けてのスケジュール確認、中間報告の実施について（私立学校等改革総合支援事業に影響）
- ・各委員会から提出された「看護学部・委員会活動計画と評価」について、学部全体を検証することを目的に PDCA サイクルシートを作成し運用することとした

○2020 年度活動内容：全 4 回開催

- ・PDCA サイクルシートを基に、自己点検・評価委員会において各内容を確認。他の委員会との整合性がとれているか。
- ・中長期目標についての再確認⇒令和 3 年度看護学部・看護学科の目標⇒各委員会の目標・計画の立案
- ・年報の作成について・・・中間報告に向けての土台
- ・活動評価シート（個人活動報告書）の様式の再確認

5.3.1.4 ハラスメント対策委員会

委員：中村教授（学部長）、渡邊教授、本間講師、古澤助教
齋藤教授（2020）
（2019）佐藤事務局長、船越担当、内山総務課長
（2020）西川事務局長、風間教務学生課長、本田総務課長
事務局：猪浦担当（2019）、内山企画連携課長（2020）

<活動内容 2019：全3回開催>

5月14日

1. パワーハラスメント、セクシャルハラスメント

①委員会の設置趣旨と目的の確認

②規程の確認

2. 委員会の運営について

①秘匿性の担保

②相談、対応、対処の流れの確認

③構成員の確認

3. その他

古澤委員から第5条（相談および相談者）について発言があり、審議の結果、「投書箱」は事務局周辺のメールボックスを活用して相談員が管理することとし、Eメール等は3名の相談員公表時に併記することとした。なお、ファックス番号は削除することとし、相談員は教員から1名及び学生相談室員から1名については中村委員が次回委員会までに推薦し、事務職員から1名については佐藤事務局長が推薦することとした。

中村委員から第8条（相談員の任務）について発言があり、審議の結果、第7項のとおり相談員は、対策委員会の委員は兼ねてはならないことを確認した。

6月5日

1 長岡崇徳大学ハラスメントの防止に関する規程の改正について

2 相談員の選任について

森委員長から相談員の選任について発言があり、審議の結果、長岡崇徳大学学生相談室規程第4条第3号の心理カウンセラーは佐藤事務局長が田宮理事長を通じて田宮病院に有資格者の有無を確認後依頼することとした。

7月23日

1 長岡崇徳大学ハラスメント防止・対策ガイドラインについて（本間講師より提案）

2 相談員の選任について⇒中村学部長に依頼

3 ハラスメント防止ハンドブックについて（本間講師より提案）

<活動内容 2020 年度：全 2 回開催>

7 月 15 日

1. 教職員を対象としたハラスメントに関する講演会の実施について
2. ハラスメントに関わる相談窓口や、その後の対処の道筋に関する規定の作成について
3. 本学の「セクシャルハラスメント及びパワーハラスメントの防止に関する規定」にアカデミックハラスメントの追加について
4. 既定の HP への記載について
5. リーフレットの作成と学生への配布について

斎藤委員より、配付資料に基づき一通り説明があり、以下の事項が報告・提言された。

- ・令和 2 年 6 月 1 日より、職場におけるハラスメント防止対策が強化され、パワーハラスメント防止措置が事業主の義務となったことが報告された。
- ・ハラスメント防止に関する規程やガイドラインは、今後、大学 HP にアップしていくことが必要であり、外部評価に影響してくる（大学基準協会・評価基準 7 においてハラスメント防止のための体制の整備を規定している）
- ・ハラスメント専門の相談窓口が必要である（学生相談とは別である）
- ・配布資料論文の中で、過去に起こったアカハラに関する様々な事例から、加害者はハラスメントの認識がないまま指導を行っている可能性もあることが述べられている。

以上のことから、まずは教職員への啓発が必須であり、ハラスメントに関する講演会の実施が提案され、異議なく承認された。また、リーフレットの作成と学生への配付も併せて承認された。学生に対しては 9 月 30 日の後期オリエンテーション時に配付できるように準備をしていく。

8 月 26 日

- 1 規程案については、文言の追加や順序などが大幅に変更となるため、従来の規程を廃止とし、新たな規程として提示することとした。
 - 2 ガイドラインについては一部文言の修正を行うこととした。
 - 3 ハラスメント防止・対策に関する講演会について、ヒューマンスキル研究所所長の宮川先生をお招きして実施する提案があり、承認された。
 - 4 学生配付用のリーフレット案が出され、9 月のオリエンテーション時に配付し、ハラスメント対策委員会から学生に説明することで承認された。
- また、大学ホームページのリニューアルに合わせて、ハラスメントに関する記事をアップしていくことも確認された。⇒大学 HP の学校生活サポートのページに規程とともにアップした。

5.3.2 教授会所掌委員会

5.3.2.1 教務委員会（2020～卒業研究委員会を吸収）

委員長：田邊 要補 教授（2019）、飯吉 令枝 教授（2020）

委員：（2019）飯吉教授、目黒講師、駒形助教、角山助教

（2020）田邊教授、目黒講師、沼野助教、大崎助教、角山助教

事務局：（2019）船越担当、志田課長、猪浦担当

（2020）風間 教務学生課長、猪浦担当、吉田担当

活動内容：

1. 教務に関する所掌事項の運用

教務に関する適切な所掌事項の運用を行うことを目的とし、教務システムを2019年度後期から運用を開始した。また、2019年度に単位の授与及び試験に関する規程、既修得単位に関する規程等を改正し、不正行為に関する規程や試験監督業務に関する手順を定めた。また、新たな規定等を加えて便覧を見直し、2期生だけでなく1期生にも新たに修正した便覧を配布した。2020年度は新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、2019年に引き続きカリキュラムを円滑かつ適切に履修できるよう前後期のガイダンスや1年生への履修指導を実施した。履修指導では、2019年度は入学後に生物および化学の試験を実施し、その結果に応じて、前期の「看護教育のための生物学」や「看護教育のための化学」を履修するように指導した。2020年度は新型コロナウイルス感染症に伴い生物および化学の試験が実施できなかったが、2021年度は継続して実施していく予定である。

シラバス作成にあたり、2019年度は科目担当者にシラバス記載時のポイントを添えて依頼した。また各科目担当者から提出されたシラバスを授業の到達目標、評価、予習・復習を中心に点検し、不備のあったシラバスについては修正を依頼した。2020年度はさらに記載時のポイントを修正して科目担当者に依頼した。学内の教員はシラバス記載についてかなり周知できてきているが、非常勤講師については授業の到達目標、評価、予習・復習について不備なものもみられ今後の課題である。

2020年度、2021年度の時間割を作成した。外部講師の希望をとったうえで学生の学習がスムーズに行えるよう曜日の偏り等を調整し、学内の教員に確認をとったうえで最終決定を行った。

2. 入学前教育の実施

入学する学生の学習の習慣化および基礎学力の向上を目的に、2019年度はナガセの教材を用いて入学前教育を実施した。入学前ガイダンスでは、大学での学習についての話とプレイスメントテストなどを行った。新型コロナウイルス感染症対策のため、2回目の確

認テストは中止となった。2020年度は継続してナガセの教材を用いて入学前教育を実施した。新型コロナウイルス感染症対策のため学内での入学前ガイダンスは中止とし、郵送で入学前教育の説明とプレイスメントテストを実施した。

3. リテラシーセミナーの実施と再検討

2019年度は、広報委員会が実施したリテラシーセミナーを後期から教務委員会に依頼され、3回企画・実施した。2020年度はリテラシーセミナーの実施について検討し、昨年からのリテラシーセミナーは終了として、今後は「特別講座」として企画・実施していくこととした。新型コロナウイルス感染症対策のため2020年度は「特別講座」の開催はなかったが、今後も継続して企画・実施していく。

4. 卒業研究の計画

2020年度は、2021年度から始まる卒業研究のスケジュールを作成した。また、卒業研究の流れに沿ってゼミの希望調査票、倫理チェック、依頼文、同意書、論文作成規定、論文記入例等を作成した。次年度のゼミの希望調査等が円滑かつ適切に実施できるよう継続して委員会で審議していく。

5.3.2.2 入試委員会

委員長：加固 正子 教授

委員：(2019) 渡邊教授、袖山教授、高島教授、駒形助教、大崎助教

(2020) 森学長、渡邊教授、金子教授、袖山教授、高島教授、板山教授

事務局：(2019) 風間 入試広報課長、泉担当、安達担当

(2020) 泉 入試広報課長、安達担当、田村担当、大嶋担当

活動内容：

I 2019 年度

1 志願者数目標 120 人以上

出願数 (93)、受験者数 (91)、合格者 ($85+\alpha$)、手続き完了者 ($63\pm\beta$) にとどまり、準備室での運営の昨年度と比較して同数という結果であった。区分別にみると、12 月までの AO および学校推薦志願等が 42 人(目標の-18 人、70%)、一般選抜等が 51 人(目標の-9 人、85%)であった。辞退者を除いた手続き完了者は、63 人で定員数の約 80%である (3/16 現在)。

2 入学者選抜試験計画の立案

入試要項を作成し各試験前に教職員に説明してきたが、個別面接試験のみの AO 選抜、一般選抜試験における集団面接の違いを説明しきれずに混乱を招き、直前に再度説明を行うことになった。

3 円滑で遺漏のない入学者選抜試験の実施

一般選抜試験 I 期の面接試験実施要領における混乱があった。また、一般選抜試験 II 期の科目試験における出題ミスを事前発見できなかったこと、科目試験監督上のインシデントを発生させてしまったことが反省点である。

II 2020 年度

1. 各選抜区分別に実施要領の作成

選抜区分毎に、実施要領、監督要領及び面接要領を作成し、実施した。なお、試験終了後担当者から改善意見を聴取し、実施し易い要領改善に努めた。

2. 選抜試験の実施要領 (評価基準を含む) の作成

面接及びプレゼンテーション評価表について、評価項目や評価基準の表現を見直した。今年度加わった約 5 分間の 1) プレゼンテーションに対して、従来の評価表の中にプレゼンテーションに対する評価項目について 1、2 月の入試委員会で検討した。従来は、AP の 5 項目のうちの「基礎学力」についての項目を除く 4 項目を利用して 5 項目に分けていたため、AP の 4 項目をもとに戻し、5 項目目に「プレゼンテーションを適切に行える」

を加えて5項目100点満点とした。また、4段階評価の評価基準の表現をより適切な表現に変更し、教授会で承認された。

3. 選抜試験日程ごとの担当者配置計画の作成

選抜試験ごとの担当者の作成は事前に行い、入試オリエンテーションにて説明を行った。配置・役割計画にそって円滑に実施された。

4. 広報委員会と協同して学生募集活動に参画

英語を選択科目としたこと、大学入学共通テストの面接を廃止したこと及び一般選抜と大学入学共通テスト選抜を併願した場合、検定料を15,000円割り引く措置を行い志願者が2.4倍(49人から117人)に増加した。増加は新型コロナの影響で、受験生の県内志向が高まった後押しも考えられる。入試方法の変更は、文科省が2年前予告の方針を示していることから、高等学校学習指導要領の改訂時期や志願者の推移を見ながら継続して検討する。

5. 選抜試験の変更内容についてのweb広報資料作成

コロナ禍の状況で高校の休校措置が一般的になり、高校訪問やオープンキャンパスでの説明が困難になったため、5月に入ってから大学のホームページに動画資料を掲載した。募集要項のカラーสライドに音楽やアニメーションを加えて、親しみやすい情報提供を試みた。

6. 直前オリエンテーションの実施

出願締め切り日と入試日が極端に短い入試を除き、入試の前日に担当者を対象としたオリエンテーションを実施、その2日前に要領を配付するよう努めた。

7. 新型コロナ感染症対策ガイドラインにそった選抜試験の計画

新型コロナ感染拡大を防止するため、受験生間の間隔をあけること等ガイドラインに沿った入試を行った。

8. 一般選抜試験問題作成依頼、事前点検、印刷

一般選抜試験の「英語」について新たな出題者に依頼した。国語、数学、生物に関しては従来の作成者にI・II期分を依頼し、4教科とも入試委員を中心に2名ずつで分担して点検項目にそって点検作業を行った。問題印刷については、入試・広報課と入試委員の代表者で行い、点検、封印をして準備した。英語II期の問題文の番号ミスが受験生から指摘されたが、作問者の修正回答で対応し混乱はなかった。このミスは点検後の修正と印刷の間のファイルのやり取りの中で生じたと考えられ、印刷前の原紙の再点検を念入りに行う必要があった。次年度の改善事項である。

9. 選抜区分ごとのデータを整理し、入試判定会議(教授会)を実施

選抜区分ごとのデータを「選抜状況」として一覧表にまとめ、拡大入試委員会や合否判定会議の資料とした。

10. 大学入学共通テストを活用し、分担者が試験監督等に参加。

1月16日は2人の教員が、1月17日は3人の教員が試験監督者として、また、両日と

も 3 人の事務職員が入試担当者として長岡技術科学大学試験場で業務を行った。

11. 志願状況や入試結果の分析

志願状況や入試結果は選抜区分ごとに表にして分析した結果、学校推薦型での志願者は区分別人数には満たなかった。一方、総合型選抜は区分人数を超えて志願者が多かったため、次年度の総合型選抜枠を増やすよう募集要項を変更した。総合型区分募集人数を増やした 5 人分は、一般選抜枠を減じた。一般選抜区分の受験者や大学共通テスト利用志願者は、それぞれ昨年の 1.2 倍、3.6 倍となった。全選抜による合格者の手続きは、総数で 86 人となっている。

12. 志願者数増加につながる次年度募集計画の年度内立案

次年度募集要項作成では、まだ入学者増が期待できる総合型選抜の募集人員を 5 人増やし、25 人とした。また、3 月に行っているⅢ期総合型選抜試験を、12 月実施の学校推薦型選抜試験と同日に変更した。募集要項の表現・表記についてもさらにわかりやすくなるように見直しをした。

5.3.2.3 学生委員会

委員長：田邊 要補 教授

委員：(2019) 柳原教授、山崎准教授、本間講師、古澤助教、沼野助教

(2020) 高島教授、山崎准教授、広井准教授、大橋講師、古澤助教、伊藤助教

事務局：(2019) 船越担当、志田課長、吉田担当、猪浦担当

(2020) 風間 教務学生課長、吉田担当、猪浦担当

《2019 年度活動内容》

1. 学友会に関する規則等が未整備だったため、学友会規約、学友会選挙規則、学友会学生団体規約及び部長会規約を制定し、学生に説明・配布した。
2. 前期は学友会組織がないことやクラス各種委員を設定していなかったため、学友会組織の設立やクラス運営が円滑に行われるまでの間「クラス委員」を設定し、5名の学生で構成・運営した。学友会行事の一つである徳樹祭（大学祭）を8月25日に実施した。大学祭の名称は公募をし、4つの中から「徳樹祭」が選出された。学生にとっては初めての大学祭であり、多くの面で教職員がサポートして、企画・運営した。後期オリエンテーションの後に、クラス各種委員・学友会役員の選出を行った。
3. 緊急の連絡方法についてはフローチャートを作成し、学生及び教職員に周知した。天候による授業休講の扱いについても明文化し、学生および教職員に周知した。その後、「天候による授業休講の扱い」は1回改正した。
4. 学生と教職員間との親睦を図るため、5月10日A棟4階喫茶ラウンジで新入生歓迎会を行った。参加者は学生32名（43名）、教員21名（22名）、職員10名（13名）であった。
5. 学生から大学に対する要望が少しずつ出てきたので、学生交流会を6月12日4限（14時30分～16時00分）に行った。開催の趣旨が学生からの要望を吸い上げることだったので、要望が主ではあったが、意見として大学の「良いところ」もあり、嬉しく感じた。学生からの要望に対しては、7月26日（金）に各担当者が回答した。
6. 学生からの意見・提案等をくみ取り、大学が学生に対して回答を行うため「学生意見箱」を設置した。
7. 保護者会を企画し、役割やスケジュールを作成した。その過程で「後援会」の設立の必要性が浮上したため、後援会設立総会および保護者会を同日（10/12）に行うことで計画した。後援会会則については、7月中旬に保護者宛に案内文および後援会会則を発送した。10月12日（土）に後援会設立総会および保護者会を行った。16名の保護者が参加した。
8. 冬期間における安全運転および事故防止を図る目的で、11月19日に長岡警察署交通課による冬期交通安全講習会を実施した。学生12名、教職員20名が参加した。

《2020 年度活動内容》

1. 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月7日から学生は自宅待機とした。6月22日からの登校に向けて、学生委員会と保健衛生委員会、教務委員会、事務局と連携をして、講義室の配置、図書館、食事時の座席の確保、手指消毒の設置、清掃方法について対応した。また、対面授業に向けて「対面授業を行う上での注意点」を6月15日にポータルサイトで掲示した。登校後は、食事時間や講義の休憩時間に学生の様子を見ながら適宜声をかけて感染予防行動を促した。9月30日の後期オリエンテーション時に新型コロナウイルス感染対策について学生委員会より再度注意することを促した。
2. 新型コロナウイルスの感染拡大・社会情勢から、学生は4月オリエンテーション後から6月19日まで登校できなかった。登校後も、新型コロナウイルスの関係で、徳樹祭、サークル活動は中止せざるを得なかった。学生と委員が集まって計画する機会が持てず、球技大会と新入生歓迎会が実現したのは12月14日であった。球技大会には教職員チームも参加し、計7チームで行われた。球技大会後、A棟4階喫茶ラウンジで実施した新入生歓迎会には1年生の多くが参加した。学友会役員選挙は、来年度実施の予定である。
3. 2019年度に実施した学生交流会の意見・要望に対し、大学側が「次年度以降の取り組みになります」などと回答したものについての実施状況や進捗状況を事務局長に確認した。回答は8月18日に掲示およびポータルサイトにて回答した。
4. 令和2年度学生満足度・学生生活実態調査用紙を作成した。1年生には12月9日、2年生には12月21日に調査を実施した。全体配布数96人で回収率100%、有効回答率99.0%だった。「大学入学に関する満足度」、「支援体制に関する満足度」、「各施設・設備に関する満足度」、「学生生活に関する実態」、「学生自身に関すること」についてまとめ、報告した。
5. 学生からの投書は、4月25日1通、5月6日1通、5月9日1通、5月20日1通、1月18日（7月回答）1通、8月7日1通、8月27日1通、10月12日1通の、計8通あった。投書内容に応じて他部門と協力しながら回答した。
6. 保護者会を10月3日（土）に行った。出席数は50名（1年生34名2年生16名）であった。個別面談は12名（1年生7名、2年生5名）であった。保護者へのアンケートでは「満足した：66.7%」「やや満足した：31.0%」の合計は97.6%であった（N=42）。
7. 11月18日に「冬期交通安全講習会」を企画したが、講師を務める長岡警察署交通課の都合で延期となり、その後の日程調整ができないために中止となった。
8. 保健衛生委員会、キャリア支援委員会、継灯式委員会が学生委員会の傘下に入った。3つの委員会からはそれぞれの委員長が学生委員会のメンバーとして入ってもらい、連絡を密にし、委員会活動を行った。

5.3.2.4 広報委員会

委員長：柳原 真知子 教授

委員：(2019) 中村教授 (学部長)、高島教授、望月教授、広井准教授、大橋講師、大崎助教、桶谷助手

(2020) 森学長、金子教授、板山教授、広井准教授、大崎助教、桶谷助手

事務局：(2019) 風間 入試広報課長、泉担当、安達担当

(2020) 泉 入試広報課長、安達担当、田村担当、大嶋担当

活動内容：

I 2019 年度：委員会開催回数 15 回

1. OC の企画・運営・実施

OC について計画通り実施されたが、8 月以降専門業者の介入を得て、OC の企画・運営での改善がなされた。具体的には教員ポロシャツの着用、教室への廊下に目張りをする、学生のプレゼンへの参加、動画の作成・配信等が新たに企画・実施された。

2. 計画された高校訪問の実施を行う

高校訪問は予定通りなされ、追加された入試 (1 月) に向けた高校訪問もなされた。高校訪問に向け、高校への適切な対応を教員ができるための質を確保するため、オリエンテーションや研修がなされた

3. 新たな広報企画活動の企画と実施を図る (出前授業・リテラシーセミナー等)

出前授業のチラシが作成され関連施設に配布された。授業の依頼があり実施された (次年度この事業は地域貢献委員会に委譲の予定であったが、最終的に広報委員会が担当することになった)、リテラシーセミナーの最初 2 回は、広報で実施し、その後教務委員会に委譲された。

4. 専門業者の介入により広報活動の質を高める：専門業者の導入がなされ、インターネット環境が整えられアクセス数が増えたが、OC に関しては伴走型で大きな変化を期待できず、OC 参加者や目標とする入試志願者数の増員に繋がらなかった。

5. 大学案内の完成とちらしの作成を行う：大学案内は予定より遅れての納品となり、作成時期の前倒しが必要であった。チラシは作成され配布された。

6. 学内見学希望施設の受け入れを行う：学内見学希望施設の受け入れは実施された。

7. 外部への入試説明会への参加を行う：業者が行う入試説明会への参加がなされた

II 2020 年度

1. OC 参加者年間 300 名を確保し、確保のため各高校が本学の特色を理解できるための方略を検討する：OC 参加者は 19 年度 8 回開催で 221 名、20 年度は 5 回開催で 258 名であった。Covid-19 の影響で対面型 OC の再開は遅れ、その間動画 OC で発信した。

webによる広報の改善により漸次資料請求数が増加したWebの改善によりアクセス数が増加した。OC以外にも臨時で看護体験を開催した。これはCovid-19で病院での看護体験ができないため、大学での看護体験依頼があり急遽実施した。途中からの企画ではあったが、新しい型の看護体験となった。OCの内容も具体的に改善されたが総数300名には達しなかった。

2. 地域社会での認知度を高める：地域社会での知名度を上げる活動としては、出前授業、TVでの宣伝、路線バス車内である。出前授業の派遣教員数は19年度17名、20年度42名と倍増した。TVでの広告は1チャンネル15秒であったが放映できた。路線バスでの車内放送が、市内の高校を循環するバス路線及び新潟市内の1路線でなされた。放送内容は「長岡崇徳大学は、新潟県中越地区初の看護大学で、地域をつなぐ看護力を育みます」である。
3. 高校教員説明会や高校訪問の昨年度の分析から大学の理解を深める：高校教員への大学説明会は、年1回5月に行われるが、20年度はCovid-19禍で6月に延期とされたが実施された。参加校は19年度より3校の増となっていた。高校訪問は訪問教員の専門化をためるとし、訪問教員を厳選した。高校訪問は、Covid-19禍で高校の立ち入り禁止となり、訪問は6月、9月、11月の3回実施した。
4. 大学案内の充実を図る：21年度の大学案内作成において、学生にアンケートを取り学生目線（元受験生目線）からの意見を得、また教員（委員）からも個別の意見を得て改善点を抽出し話し合い具体的な改善策につなげていった。
5. 魅力ある企画を検討し導入・実施する：
高校の依頼で急遽企画された看護体験は、従来のOCでなされてきた見学中心となった看護体験とは違い、事前課題を課し看護体験で課題についてのやり取りを行い、看護の技術を体験するという新しい方法であった。これが高校側からの評価が高く好評であった。今後改善を加え継続して行い、大学の特徴としてもアピールできる企画になるだろう。

5.3.2.5 キャリア支援委員会

委員長：古澤 弘美 助教

委員：(2019) 駒形助教、伊藤助教、桶谷助手

(2020) 本間講師、伊藤助教、藤田助教、桶谷助手

事務局：(2019) 船越担当、志田課長、猪浦担当

(2020) 風間 教務学生課長、猪浦担当、吉田担当

活動内容：

<2019 年度活動報告>

目標として以下の3点を掲げ活動を行った。①就職に関する情報収集と公開を行う。②ボランティア、アルバイトに関する情報の公開を行っていく。③キャリア支援室の整備を行い、学生に興味を持ってみてもらえるようにする。

就職情報に関しては、長岡看護福祉専門学校から就職先の情報収集を行った。求人担当者からの情報、郵送できた求人情報に関しては、ファイリングし閲覧できるようにした。

インターンシップ情報に関しても、「インターンシップとは」に関してのお知らせと実施機関の情報公開を行った。

開学1年目で、学生数も43人ということもあり、学生の反応が乏しく、学生への啓発活動、ニーズ把握が重要な課題となった。

<2020 年度活動報告>

活動目標は、前年度の課題を踏まえ、以下の2点とした。①学生にキャリア支援に関する動機付けができる。②キャリア支援室の整備を行い、学生が利用しやすい体制を作る。

キャリア支援室の整備・質向上のため、新潟青陵大学の取り組みに関して、齋藤智先生を講師に研修会の開催、施設の見学を行った。

また就職情報の収集と公開は、同様に実施していたが、コロナ感染禍の中で就職担当者の訪問がない状況であった。

学生にキャリア支援に関しての広報とニーズ調査のために、アンケートを実施した。アンケートでは、キャリア支援室そのものの存在が認知されていない現状が明らかになり、さらなる課題となった。

2年生が基礎看護学実習Ⅱに入る段階で実習時のマナーについて外部講師による研修会をオンラインで行った。病院の実態に即した内容であったため、非常に身近に感じられたという感想が多く聞かれた。

2021年度に向けては、キャリア支援室の認知度の問題から、場所そのものを見直すこと、本格的な進学・就職活動に入ってくるため、進学・就職情報に関して適切に、いつでも見ることができる体制づくりと、相談対応の体制づくりを引き続き行っていくこととした。

5.3.2.6 学術委員会

委員長：渡邊 克義 教授（2019、2020.8まで） 板山 稔 教授（2020.9～）

委員：（2019）望月教授、広井准教授、目黒講師、沼野助教

（2020）倉島教授、望月教授、渡邊教授、目黒講師、沼野助教

事務局：（2019）柗川 図書館担当、船越担当

（2020）柗川 図書館担当、内藤 財務課長

活動内容：

≪2019 年度≫

- 1 科研費申請の事前指導を行った。
- 2 研究紀要の刊行に向けて投稿要領を告知した。

≪2020 年度≫

1. 長岡崇徳大学紀要の発行

紀要発行に向けて査読要項を作成し、査読における手続きを明確にした。原稿募集に対して短報1編、資料2編の投稿があり、査読・編集作業を経て、最終的に資料2編の掲載となった。2021年3月31日付で電子媒体により「長岡崇徳大学紀要第1号」を刊行した。

2. 研究不正防止に係る活動

研究における不正防止推進部署として、不正防止に関する学内の体制・諸規程等を整備した。（「研究不正防止のための管理・監査体制」「公的研究費不正使用の防止に関する基本方針」「公的研究費の適正な使用に関する行動規範」「公的研究費の不正使用防止計画」等）

3. 研究活動推進に関する具体案の検討

研究活動を推進するための次年度の具体的活動内容、支援方法について検討した。外部資金獲得を支援するセミナーの開催、研究の実施をサポートする環境の整備等について具体策が話し合われた。

5.3.2.7 FD委員会（2020年度、シミュレーション委員会統合）

委員長：倉島 幸子 教授

委員：(2019) 本間講師、大橋講師、沼野助教、大崎助教、角山助教

(2020) 森学長、渡邊教授、斎藤教授、山崎准教授、大橋講師、沼野助教、
角山助教

事務局：(2019) 船越担当、吉田担当

(2020) 内山 企画連携課長

≪活動内容（2019年度）≫

1. 教員アンケート調査を行い、結果に基づき FD 研修会を企画し実行した。①シミュレーション教育講演会（8/29）②災害教育におけるシミュレーション教育の実際（9/13）③地域包括ケア学習会（9/20）④教育目標共有化学習会（9/26）⑤超少子高齢化での私立大学の使命（2/28）
2. 授業評価アンケートを作成し前期 19 科目、後期 15 科目の学生によるアンケートを行った。前期分の結果はキャンパスマジックに掲載した。
3. 実習指導について 3/23 日以下のテーマで FD 研修会を行った。
テーマ「看護教員として実習における学生の学びを支援するとは何か」
4. 公開授業・見学の実施要領を作成し、後期開講の学内教員が担当する必修科目・基礎看護技術演習Ⅱについて授業評価（ピアレビュー）を行った。
5. シミュレーション教育に関する講演は 8/29、災害看護における演習は 9/13 に実施し全員参加であった。
6. FD 委員会活動に関する自由記述式のアンケートを 3/9 に配信した。3/13 締め切りで回収率は 81.8%（18/22 名）であった。結果をまとめ全教員に配布した。

≪活動内容（2020年度）≫

1. シミュレーション教育研修を Zoom により 3 回シリーズで行った。
(講師：東京医科大学医学部看護学科 阿部幸恵先生)
シミュレーション教育を実践していく上で初歩的な内容から実践まで具体的に学べ、教員のアクティブラーニングとなった。毎回のアンケート結果を講師に送り次回に活かしていただいた。参加率は各回 70～85%であった。

2. シミュレーション教育設備見学はコロナ禍のため見学に行くことができなかった。
3. 前期・後期でアンケートを実施。講義については教務システムで入力、演習・実習については用紙に記入した。教務システムでの回答率は 30～50%、用紙記入は 100%であった。
4. 公開授業・見学実施要領に基づき、学内教員が担当する科目について後期に授業見学・評価（ピアレビュー）を実施した。新型コロナウイルス感染予防対策のため見学者数を 2 名に限定したこともあるが、見学者が少なかった。
5. 学内教員 3 名による研究報告を 9 月、12 月、3 月の教授会の前に行った。出席率は 70～80%であった。
6. H29 年、準備室の段階で長岡技大と崇徳厚生事業団との包括的連携に関する協定を結んでいる。シミュレーション教育に関する研究が目標であったが、R 元年に技大と研究について話し合った結果、技大で進めている「毛髪のホルチゾールを用いたストレス研究」を提示され本学で協力できるメンバーを決めた。今年度はこの研究に直接関わってはいないが、メンバーによる段階的な研究を進めており、今後技大の研究テーマに共同で研究できる体制を整えていく予定である。シミュレーション委員会で研究の進め方について検討していたが、今年度から FD 委員会に吸収されたため、FD 委員会ではシミュレーション教育の促進を図る活動を実施し、今後研究が進むようにして計画していく。
7. 今年度の委員会活動に対する教員のアンケートを 3/19 締めで行った。回答率 57.6%であった。アンケート結果をまとめ教員に配布した。(3/31)

5.3.2.8 研究倫理委員会

委員長：望月 紀子 教授（2019）、金子 史代 教授（2020）

委員：（2019）渡邊教授、広井准教授、目黒講師、沼野助教

（2020）渡邊教授、高島教授、望月教授、目黒講師

事務局：柁川 図書館担当、内山 企画連携課長、坪内担当

活動内容：

1. 委員会開催回数と検討内容

委員会は、2019年は10回、2020年は11回開催した。また、2020年には、臨時委員会4回を開催した。委員会の議題の第1は、研究倫理審査申請に対する審査であり、2019年の審査総件数は16件、審査結果は承認5件、条件付き承認2件、変更の勧告7件、不承認2件、2020年の審査総件数は16件、審査結果は承認4件、条件付き承認4件、変更の勧告7件、不承認1件であった。第2は研究倫理審査申請用紙の作成と修正であり、2019年は研究倫理審査申請に必要な各用紙の基本申請用紙を作成した。2020年では、研究倫理委員会規程の確認、申請用紙の内容の検討（迅速審査チェックシートの研究課題目の記述を含む迅速審査の進め方の確認、研究に関する問い合わせ先の確認）を行った。また、2020年委員会活動目標・活動計画の確認と検討、ショートラーニングセッションを2回行った（①研究対象者への倫理的配慮について学会誌：研究論文を参考に話しあった。②既存の調査票使用と許可等に関することを話し合った）。

委員会の研究倫理審査申請に対する審査では、適正な審査を目標に申請者の研究全体を深く理解 する視点から引用している文献等を委員間で再読し、その研究の研究対象者に対するリスクとベネフィット評価を行った。今後の課題は、研究倫理審査申請に対する審査を通し研究を支援していくことである。

2. 日本学術振興会主催の研究倫理eラーニングの受講

1) 2019年は全教員、2020年は約9割の教員が日本学術振興会主催の研究倫理eラーニングを受講した。2) 倫理審査の申請において、研究責任者のみ日本学術振興会主催の研究倫理eラーニング受講修了証明書の添付しない研究倫理審査申請書もあった。共同研究者の証明書の添付を促すことによって全員の証明書が添付された。3) 2021年1月20日(水)に研究倫理委員会主催の研修会「看護研究と倫理」を実施した。講演者は田代志門先生（東北大学大学院文学研究科准教授）、テーマは「看護研究と倫理」である。参加者は教員、臨床の看護師、学生（2年生）、事務職員の合計62名が参加した。満足度は「良かった」「とても良かった」を選んだ人が85.5%であった。参加できなかった教員の1名は、後日録画した講演内容を視聴した。今後も日本学術振興会主催の研究倫理eラーニングの受講と修了証の提出を周知することを継続課題としたい。また、倫理審査の申請において、倫理審査の申請時には、共同研究者も含めた全員の証明書が必要であることを周知することが必要

である。2020年度の研究倫理主催の研修会「看護研究と倫理」では、研修会の評価は高かったが自由記載に対象者の幅が広すぎたのではないかとの記載があり、事前にそのことについて委員会の説明が十分であった。アンケート結果からは今後の課題として3つ①大学内での倫理審査の共通理解の必要、②研究支援体制づくりの提案、③事例報告、教育・看護の活動報告と実践報告等の倫理審査の基準作成、が抽出された。

3. 研究活動を促進するために、現在の迅速審査に関する申請書等の見直し

2019年に作成した申請資料を、研究活動の促進を目的に、2020年、特に迅速審査に関する申請書等の見直しを図ることとした。他大学等の迅速審査について文献検討を行い、迅速審査の意義を確認したうえで、本学研究倫理委員会規定にある迅速審査の内容を踏まえ、「研究倫理迅速審査依頼書兼チェックシート」では、申請先の明確化、迅速審査の要件、同じテーマで再申請をする際に区別がつくように主な変更内容項目の設定を修正した。この迅速審査の内容変更に伴い「研究倫理委員会への申請手続きについて」も修正した。今年度中に修正を終了し、次年度4月の教授会で審議・報告の後、手続きを開始する予定である。

4. 「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」作成に関連する資料を確認

2020年に申請用紙の内容の検討（迅速審査チェックシートの研究課題目の記述を含む迅速審査の進め方の確認、既存の調査票使用と許可等に関すること）を他大学の規程を参考に話し合った過程で「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」作成に関連する資料を確認した。また、「ヘルシンキ宣言」「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」「看護者の倫理綱領」「看護研究のための倫理指針」の研究倫理の基本となる資料を共有し指針検討に活用した。倫理の基本となる資料は確認できたが、本大学の「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」の作成につながる資料の確認が一大学にとどまったためである。2021年は委員会活動として計画的に資料を収集し検討していきたい。

5.3.2.9 地域貢献委員会

委員長：望月 紀子 教授

委員：(2019) 渡邊教授、田邊教授、飯吉教授、山崎准教授、本間講師、伊藤助教
(2020) 中村教授（学部長）、渡邊教授、斎藤教授、山崎准教授、本間講師、
駒形助教

事務局：内山 企画連携課長、柗川 図書館担当、坪内担当

活動内容

2019 年度：

1. まちなかキャンパスに 2020 年度より会員として参加予定であり、その準備として、まちなかカフェの講座聴講や、まちなかカフェの講師、まちなか大学の企画と講師を務めた。
2. 長岡崇徳大学市民公開講座を、長岡震災アーカイブセンターきおくみらいで、9月7日～翌11月16日の間に3回実施した。なお、3月14日の第4回目は、COVIT-19のため中止とした。
3. 2020年1月12日の職業体験イベント「長岡しごと体験ランド」に「ナースのおしごと」と題して、委員全員参加で出展した。
4. 地域の看護職への看護研究支援として、「看護研究講座」を5回1タームで10月19日～1月11日に実施した。また、「看護研究相談」も受けた。共同研究の窓口を設けたが、申し込みは無かった。
5. コンソーシアムにいがた（看護系タスクフォースの「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」9月21日）に教員2名と学生3名が参加した。
6. 2019年度より NaDeC の会員となり、会議に参加した。ワーキンググループには、「起業・創業支援」と「就職・インターンシップ」に出席した。NaDeC 構想事業への提案をしたが、採択されなかった。

2020 年度：

1. 市民公開講座を3講座企画したが、COVIT-19のため開講延期するも、今年度は中止となった。高齢者施設職員を対象として、終末期ケアの講演依頼があり、その分野の研究者(教員)を1月に派遣した。
2. 長岡市近隣の看護職へのキャリアアップニーズ調査を行い、その結果を本学ホームページにアップした。結果は、2021年度以降の看護職向け講座の企画に活用する。

3. 看護研究支援として、看護研究講座を COVIT-19 のため 4 月 25 日開始予定を延期し、9 月 12 日から 5 回シリーズで実施した。看護研究相談も年間 3 件受けたが、共同研究は無かった。4 月に JA 長岡中央総合病院で看護研究講座をする予定で打ち合わせも行っていたが、COVIT-19 のため中止となった。

5.3.2.10 大学連携委員会

<2020 年度設置>

委員長：高島 葉子 教授

委員：森学長、中村教授（学部長）、望月教授、古澤助教

事務局：内山企画・連携課長、坪内担当

活動内容：

1. 当委員会は 2020 年度から発足したことから、第 1 回会議で大学連携委員会の役割を確認・作成した規定案が 4 月の教授会で承認され、活動を開始した。活動の主な内容は、長岡市にある 4 大学 1 高専や長岡市、その他団体と連携して活動する「まちなかキャンパス長岡」、「NaDeC」、「ながおか、若者、仕事機構」、および新潟県高等教育コンソーシアム会議の看護系タスクフォース部会の活動である。
2. まちなかキャンパス長岡では、まちなかキャンパス運営協議会の広報分科会、まちなかカフェ分科会、まちなか大学・大学院分科会、学生委員分科会の活動を行った。具体的には PR コーナーには（5～7 月）本学を紹介するパネルを作成・展示、まちなか通信（6 月号）を担当した。また、まちなか大学・大学院分科会では、本学教員を講師として推薦し、まちなか大学 5 回連続講座『老後を〈健幸〉に生きるための備え』のうち 3 回は本学教員 3 名（袖山教授、望月教授、古澤助教）が担当した。まちなかカフェではコロナ禍のため、企画された講座が行えない状況が続いた。次年度に向けて講座・講師の推薦を行っていく予定である。
3. 長岡しごと体験ランドの活動はコロナ禍のため、小学生を対象としたオンラインの講座とすることが決定し、担当者が学生の協力を得て、看護体験の DVD 作成を行った。動画については機構から本学内外への広報用として使用許可を得ることができた。
4. 看護系タスクフォースの活動もコロナ禍のため、新潟県内の看護学科を有する大学ではニュースレターを発行することとなり、学友会会長に協力を得て、記事の提供を行った。
5. NaDeC の活動では、2019 年度までは 4 分科会のうち 2 分科会に参加していたが、今年度は 4 分科会すべてに参加した。就職・インターンシップワーキング G は 1 回の会議を行い、2 月に長岡地域に本社を置く企業の紹介が長岡大学で行なわれ、本学からも 3 名 Zoom で参加した。起業ワーキング G は数回の会議を経て、ファーストペンギンプログラムを完成させた。本学の起業に関する窓口は企画・連携課とした。学生

の起業セミナー参加が難しいため大学としての企画は設けず、情報の発信と会議への参加を継続することとなった。産学協創ワーキング G はオンラインでの会議を行った。補助金の見直しと、産学協創の取り組みに関する現状把握のためのアンケート調査を、企業と大学教員に対して行った。本学では大学連携委員会から教員に対して、メールでアンケート調査を依頼し、実施した。明確な回答率は不明であるが、NaDeC担当者からは回答率が良かったという報告を受けている。授業連携ワーキング G は数回の会議を実施しており、長岡市内 4 大学 1 高専間の単位互換を進める検討を行い、大学連携委員会とは切り離し、教務委員会で検討することとなった。また、長岡を一例として、各校の学生が日本の地方都市が抱える課題等を学ぶことを目的とした『長岡学』の講義が計 8 回シリーズで企画され、本学は「生きるを支える長岡の地域包括支援と看護職の役割」の担当と講師を提案した。

6. 学生の活動を支える活動として、新潟日報チラボについて、本学学生による記事投稿にあたり、支援を行った。8 月には「コロナ禍におけるメッセージ」、12 月には「NaDeC、まちキャン長岡、タスクフォースなどの活動を通して感じたこと」の記事が掲載された。また、2021 年度のまちキャン長岡および NaDeC 学生委員の交代にあたり、委員長および現学生委員が説明会を実施し、1 年生の総意でまちキャン長岡 3 名、NaDeC 2 名の委員を決定した。
7. その他の活動として、起業に関する講演会を本委員対象として実施した（柏崎ポーターズ）。また、和歌山大学主催の「地域と大学を繋ぐコーディネーター」のための研究実践オンラインセミナー（全 4 回）に参加し、コロナ禍における今後の地域連携の進め方について、全国の参加者と意見を交わすことが出来た。特に第 3 回では「コロナ禍で地域連携を再開する基準」をテーマとした神戸市看護大学のプレゼンは、同じ医療・看護系大学でもあり本学としても参考になった。

5.3.2.11 国際交流委員会

委員長：渡邊 克義 教授（2019、2020.8 まで） 加固 正子 教授（2020.9～）

委員：（2019）加固教授、山崎准教授

（2020）倉島教授、渡邊教授、板山教授、駒形助教、沼野助教

≪活動内容 2019 年度≫

- 1 海外の提携校の開拓には着手したが、具体的交流の段階には達していない。
- 2 三之町病院（三条市）に勤務するインドネシア出身の看護師 2 名に対し、令和 2 年 6 月にキャリアデザインⅡの授業でレクチャーをしていただく件で承諾を得た。

≪活動内容 2020 年度≫

1. インドネシア出身 EPA 看護師による講演会を 6 月に実施し、1 年生（対面）58 名、2 年生数名（オンライン）が参加し、質疑応答では 1 年生からの質問に応じていただいた。教職員数名はオンラインで聴講された。
12 月の予算請求時に次年度の国際交流委員会企画講演会の企画を行い、年度内に原案を作成した。
2. 介護学科留学生（ネパールより 2 名）の情報を得て、交流会実施日程等について調整したが、調整が困難であったため実施できなかった。次年度開催の検討を行った。
3. コロナ禍のため留学生との交流は未実施であったが、長岡技大の国際交流課を通じた情報収集や協力依頼の第一歩を踏み出すことができた。留学生会会長にメールで交流の申し入れを行ったが、コロナ禍で全く交流ができない状況であった。
4. 長岡市国際交流協会訪問により活動内容についての情報収集、および長岡市「地球広場」での在日外国人支援に学生が参加可能性について確認した。コロナ禍で交流プログラム等が中止であり、実際に学生への情報提供は行えなかった。
5. 協定校調査については、長岡市国際交流協会から長岡市が協定を結んでいる大学名の情報を入手し、必要時には長岡市からの紹介を得られることがわかった。学生の意識調査や教員全体からの情報収集を事前に進めることとした。
6. 学生対象の国際交流活動についての意識調査は、研究倫理委員会の承認過程があったため、年度末実施の予定を変更し、4 月に 3 学年とも実施することに変更した。教員対象の調査として、メールによる情報提供を依頼したが、返信が半数程度であった。詳細の聞き取りは次年度に持ち越すこととした。
7. 長岡赤十字病院の「外国人患者受け入れ医療機関認証 JMIP」について調査し、情報を得た。外国人受診者への支援状況や具体的内容については数が少なく産科受診者が中心であった。学生向けに留学に関するパンフレットを取り寄せた。資料の展示を積極的に行うために、閲覧用マガジンラックを次年度予算請求に追加した

5.3.2.12 実習委員会

委員長：袖山 悦子 教授

委員：(2019) 高島教授、広井准教授、古澤助教、伊藤助教、大崎助教、桶谷助手
(2020) 斎藤教授、高島教授、広井准教授、古澤助教、伊藤助教、大崎助教、
藤田助教

事務局：(2019) 船越担当、志田課長、猪浦担当

(2020) 風間 教務学生課長、猪浦担当、吉田担当

活動内容 2019 年度：会議開催回数 17 回

1. 実習要項の作成・製本・配布

2019 年度臨地実習共通要項、2019 年度基礎看護学実習要項 I の製本・配布を行った。

2. 基礎看護学実習 I の円滑な実施

2019 年 7 月 1 日に基礎看護学実習のオリエンテーションを基礎領域と連携して実施した。基礎看護学実習に係る費用、実習必要物品（マスク、携帯電話）等の購入を行い円滑に実習が行われた。

3. 実習施設の開拓

新たな実習施設確保及び実習施設として契約している実習施設を訪問し、確認と追加依頼、新たな施設の開拓をした。

4. 第 1 回実習指導者会議の企画・運営

2019 年 9 月 12 日に実習施設より 37 名の出席があり本学の理念、教育目的・目標、実習目標、実習方法について説明した。なお教育研修として、本学の災害看護学准教授より災害看護支援を行うための基礎知識や心構えについて講演を行った。当初予定していた第 2 回の実習指導者会議は、新型コロナウイルス感染の拡大にて中止をした。中止に伴い、今後の実習指導に向けて実習指導者へのアンケート調査を行い、実習先訪問時に活用することとした。

活動内容 2020 年度：会議開催回数 12 回

1. 基礎看護学実習 I・II の円滑な実施

基礎看護学実習 I のオリエンテーションは、基礎領域と連携し円滑に実施できた。

基礎看護学実習 II については、新型コロナウイルス感染拡大により、学内実習となった。実習施設とズーム等を介し、指導者と学生が情報交換して臨地実習環境に近い環境を整え、実習単位を修得した。なお、実習に向けた新型コロナウイルス対策を作成し、学生・教員に配布し、実習先とも共有した。

2. 実習要項・作成・製本

予定通りに作成・製本できた。

3. 実習指導者会議の企画・運営

新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、中止し、前年度の第 2 回実習指導者会議の中止に伴い、調査したアンケート結果を基に実習窓口担当が実習調整に伺い連携に活用

できた。

4. 実習必要物品の購入

2020年度の実習に伴う消毒薬等の必要物品を過不足なく購入できた。

5. 技術経験録の作成・製本

実習における、看護技術の経験録を作成し、実習における実習先での技術の修得状況及び学生個々の修得状況を把握し、卒業時の演習に活かせるように作成した。

6. 新たな実習施設の開拓

実習受け入れ人数が狭小化したことによる母性看護学、基礎看護学、公衆衛生看護実習の開拓ができた。

5.3.2.13 国家試験対策委員会

委員長：柳原 眞知子 教授

委員：(2019) 袖山教授、目黒講師、駒形助教、伊藤助教、桶谷助手

(2020) 斎藤教授、本間講師、目黒講師、駒形助教、伊藤助教、藤田助教、
多田助手

事務局：(2019) 船越担当、志田課長、猪浦担当

(2020) 風間 教務学生課長、猪浦担当、吉田担当

活動実績 (2019 年度)：

1. 4年間の学習スケジュールを作成した
2. 基礎力養成のためにドリル学習を実施した。看字テストはアドバイザーに依頼し、実施された
3. さわ研究所開催のセミナーに教員3名参加し、自己啓発を図り、国家試験の意識を高めた：参加結果は教授会で報告
4. 解剖生理の基礎問題を教員が作成し、模擬試験を2回実施した
5. 模擬試験を学生が自己分析するためのリフレクションシートを作成、その結果を基に指導し、ポートフォリオとして個々人のファイルに収めた
6. 図書的环境整備は継続審議中である

活動実績 (2020 年度)：委員会開催回数 12 回

1. 看護学の基礎力アップのための方法を検討・実施する：2019 年作成の計画が新型コロナ対応で半年以上、計画の実施が出来ず、年度を越えての実施となったものがあったが、予定の計画は実施できた。また昨年度作成した年間計画を見直し、さらなる強化を図るために、学年ごとに担当教員を決め、担当教員により学年ごとの目標と年間計画が再検討され立案された。目標は成果が評価できるように、達成目標を数値で示す様にした。
2. 低学力の学生の個別指導のあり方を検討・実施する。低学力学生について2年生について看字 100 問テストの計算問題低得点者に個別面談を行い、計算ドリルを課し、学習のフォローを行った。また業者模試の1年・2年生の低得点者については、得点表をアドバイザー担当教員に渡し学生への学習相談の依頼をした。
3. 新1年生への新年度対応を昨年度の評価に基づき検討・実施する。1年生・2年生への対応について、新型コロナにより対応の開始が遅れ十分にできなかった。
4. 図書館の環境整備：図書館に国家試験対策コーナーを設け、本箱や机・いすを設置した。図書は後援会からの支援で必要図書を購入した。また国家試験に参考となる業者からのパンフレットなども設置した。

5.3.2.14 保健衛生委員会

委員長：飯吉 令枝 教授（2019） 大橋 洋子 講師（2020）

委員：2019 本間講師、大橋講師、駒形助教、古澤助教、角山助教

2020 望月教授、本間講師、駒形助教、角山助教、藤田助教、多田助手

事務局：2019 船越担当、志田課長、吉田担当

2020 風間 教務学生課長、猪浦担当、吉田担当

《活動内容 2019 年度》

1. 定期健康診断

学生の健康診断後に要精検者への受診勧奨を行い受診状況の確認を行った。

2. 予防接種の実施

予防接種を勧め、実習前に感染症抗体価・ワクチン接種カードを配布し、自己管理への啓蒙を行った。

3. 健康管理に関する啓蒙活動

年 5 回保健だよりをタイムリーな内容で発行をして学生へ配布した。健康に関する啓蒙を行った。また冬期に感染症対策についてポータルサイトにて注意喚起を行った。

4. 保健室管理

保健室の管理を教員が担当して行った。保健室の備品整備を行った。また近隣の医療機関名を明示した。

《活動内容 2020 年度》

1. 定期健康診断

学生の受診状況と結果を把握し個別指導を行った。学生個々で健康ファイルの自己管理を行うように指導を行った。

2. 予防接種の体制づくりと実施

日程調整と連絡を徹底して体制づくりを行い B 型ワクチン、インフルエンザワクチンを学生全員が受けた。

3. 啓蒙活動

2020 年度は学生へ向けて「授業開始に向けた新型コロナウイルス感染症拡大防止のための新しい生活」を Web 上で説明を行った。保健だよりは年 2 回発行し学内に掲示した。

4. 感染対策

学生の使用する場所の新型コロナ感染症対策について他委員会と事務と連携をして対応と啓蒙を行った。

5. 保健室整備

委員会メンバーが交代で保健室利用者の対応をし、必要時に備品の補充を行った。

5.3.2.15 継灯式委員会

委員長：広井 貴子 准教授

委員：大橋講師、大崎助教、伊藤助教、桶谷助手

事務局：2019年度 志田 教務学生課長

2020年度 風間 教務学生課長、猪浦担当、吉田担当

活動内容：

1. 2年次行事を目標に役割と担当者を決め備品の準備、来賓リスト、スケジュール、シナリオ作成を行った。学生の委員会の意見なども取り入れながら準備をした。
2. 2020年度から、学生委員会の傘下となり、連携を図りながら準備を行った。
3. 新型コロナ感染予防を考慮し、2年次は見合わせ、3年次に行うこととし、今後も3年次に行うことを教授会で承認された。
4. 日程と会場 参加者が決められた。
期日：令和3年5月22日（土曜日）
14時00分～15時00分
会場：長岡崇徳大学体育館
参列者：新型コロナウイルス感染拡大対策防止等の観点から、ご来賓は祝辞をいただく2名と学生と教員と系の事務職員のみ規模を縮小する。
保護者は参列しない。

以上

5.3.2.16 ボランティア活動委員会

委員長：齋藤 まさ子 教授

委員：袖山教授、望月教授、本間講師、目黒講師、駒形助教、大崎助教、多田助手

事務局：風間 教務学生課長、猪浦担当、吉田担当

活動内容：

1. 規程の作成

2020年度から設置された委員会のため、規程を作成した。

2. 本学における学生ボランティア活動に係るアウトラインの作成

「長岡医療と福祉の里」法人 ボランティア連合会との協働体制について話し合った。

また、ボランティア連合会や地域からの依頼、教員独自の活動に学生ボランティアが参加した場合、そして災害ボランティアなどについて、実施に至るまでの流れや委員会としての動きについて、図式で表した。

3. ホームページでの活動案内と実際の活動報告

本学のボランティア活動について、外部から依頼がある場合や学生がボランティアを希望する場合の手続き的なこと、活動参加において配慮することなどを盛り込んだ。また実際の学生の活動の様子や、参加して学んだこと等をホームページに掲載した。

4. ボランティアについての学習会

1.2年各学年を対象に実施した。本学の教員が「ボランティアとは」について講義し、その後、ボランティア連合会の担当者が「長岡医療と福祉の里」で実践している具体的なボランティア活動や、学生に参加して欲しい活動等について説明した。

5. コロナ禍におけるボランティア活動の推進

コロナ禍ということがあり、委員会としても積極的な活動推進に至らず、ボランティア連合会も活動を自粛していたことなどから、目立った実践までは至らなかった。しかし、長岡市ボランティアセンターが定期的に発行するボランティア通信《トモシア》に、コロナ禍であってもできるボランティアに関する情報が多く掲載されているため、まとまった冊数の送付を依頼し学生に周知した。当該センターとも、今後の連携を促進させていく。

5.3.2.17 災害看護委員会

※2020年度のみ設置。2021年度からは地域連携・貢献委員会に吸収

委員長：山崎 達枝 准教授

委員：袖山教授、古澤助教、沼野助教、藤田助教、桶谷助手

事務局：内山 企画連携課長

活動内容

1. 災害看護委員会規程の策定

長岡崇徳大学教授会規程第7条第2項の規程に基づき、災害看護委員会で審議し、作成した。5月の教授会で承認された。

2. 防災(地震)マニュアルの作成

防災(地震)マニュアル作成に向け、日本看護系大学協議会、学校防災マニュアル(地震・津波作成の手引き 出典：文部科学省)他、資料収集をして検討した。第1段階として、学生・教職員を対象に9月30日、新潟県中越地方に震度6強の直下型地震発生が発生したと想定し、学生の事故や災害時の連絡方法・長岡崇徳大学教職員緊急連絡網に基づいて安否確認訓練を実施した。参加者全員にアンケートを依頼した。アンケート結果を委員会で分類・分析して学生委員会、総務課に提案し、マニュアル作成の基盤作りをした。

3. 関連施設との災害時の連携体制づくり

関連施設として大学に近い医療法人崇徳会田宮病院・社会福祉法人長岡老人福祉協会桃季園・特別養護老人ホームこぶし園、各施設に対し、災害発生時の連携体制の第一歩として、訪問し協議することを計画したが、各施設では新型コロナ感染問題が急務となったため中止とした。そこで本学と棟続きである「のっぺキッチン」と協定を結ぶことが委員会で提案され、本学事務局に働きかけたが、大学としての防災指針が示されないと検討することが困難であるとの回答から、大学の防災指針が示されてから検討していくこととなった。

4. 備蓄物品の検討

雪害により帰宅困難となった学生50名(一人暮らしの学生を対象)が1泊大学に待機すると想定し、食料・保健衛生・暖房・寝具等々必要物品のリスト(案)を作成した。

5. 防災訓練への参加

災害看護委員として災害多発化・複合型災害発生、自分自身の身の安全、学生と教職員間の安否確認などについての視点をもって参加した。その結果、「学外講師の対応、欠席者・欠勤者の把握、学内放送システム、避難経路・避難場所の確認、出火元の伝達」が得られ、防災訓練の主体者である大学に提言した。

5.3.2.18 シミュレーション委員会

※2019年度のみ設置。2020年度からはFD委員会に統合

委員長：倉島 幸子 教授

委員：望月教授、山崎准教授、大橋講師、沼野助教、角山助教

事務局：船越担当、猪浦担当

活動内容（2019年度）

1. シミュレーション教育の研修会への参加

シミュレーション教育研修会に参加した委員による報告会を12/5教授会の開始前に30分間行った。

沼野助教：①看護シミュレーション教育指導者養成ベーシックコース

②日本看護教育学会交流セッション

大橋講師：①フィジカルアセスメント研修会症状アセスメント

2. 学内シミュレーション説明会参加

レールダル社の教育スタッフより「Nursing Anne Simulator」の説明と研修を受けた。

9/6（金）9：00～16：30，参加者10名（基礎3、成人4、小児2、精神1）

3. FD企画によるシミュレーション教育に関する講演、研修会

シミュレーション教育に関する講演は8/29、災害看護における演習は9/13に実施し全員参加であった。

4. 長岡技術科学大との研究開発についての情報交換

開学前の長岡科学技術大との打ち合わせ会議資料を確認し、どのような共同研究ができるか検討した。12/18に技大の野村先生を訪問し、本学でのシミュレーション教育の理解と取り組みの現状を報告し、認知行動科学・人間工学等の分野で共同研究が進められるか等、意見交換を行った。

5.3.2.19 卒業研究委員会

※2019年度のみ設置。2020年度からは教務委員会に統合

委員長：望月 紀子 教授

委員：渡邊教授、古澤助教、伊藤助教、沼野助教、桶谷助手

事務局：船越担当、猪浦担当

活動内容（2019年度）

1. 卒業研究の指導方法について検討するための準備

指導体制、オリエンテーション等について、委員会で検討した。1期生の指導教員は学長と学部長を除き、教授・准教授が2～3名、講師・助教は1名の学生を担当する。3年次1月の統合実践実習先の希望調査に合わせて、卒業研究希望領域(教員)の調査をすることとした。また、3年次前期の夏休み前に「看護課題研究」のオリエンテーションを行い、それを踏まえて後期からの臨地実習に臨めるようにする。

2. 卒業研究の評価方法について検討するための準備

R2年度後期までにシラバスおよび評価基準を作成することとした。

3. 卒業研究成果の発表会・収録集編纂等、方向性の検討

発表会については領域内、学内とするか等、教員会議に付議することとした。なお、学外発表する場合は、事前に倫理委員会を通す。抄録集の作成についても教員会議に付議する。

5.4 職員（令和3年3月現在）

事務局長	西川岩雄
------	------

《総務課》

総務課長	本田正己
事務局員	坪内久宗

《企画・連携課》

企画・連携課長	内山卓秋
---------	------

《教務・学生課》

教務・学生課長	風間敏
事務局員	吉田梨香
事務局員	猪浦拓也

《入試・広報課》

入試・広報課長	泉敏彦
事務局員	安達由香里
事務局員	大嶋悦子

《財務課》

財務課長	内藤裕之
事務局員	小島陽子

《図書館》

館長	(兼)金子史代
司書	梶川俊明

VI 大学の公開と広報

6.1 講演会等

6.1.1 学外講師による講演会等

(開催順)

研修会名、テーマ等	対象	開催日	学外講師名 所属	担当部署・担当 事業等	参加者数
新潟県の大学進学の実情について	教職員	R1.7.10	鷲尾雄慈 氏 新潟県立長岡向陵高等学校長	入試・広報課	25名
シミュレーション教育講演会	教員	R1.8.29	北嶋祐子 氏 本学非常勤講師	シミュレーション委員会	22名
地域包括ケア学習会	教員	R1.9.20	平澤則子 氏 新潟県立看護大学看護学部長	大学	22名
地域包括ケア学習会	教員	R1.9.20	吉井靖子 氏 高齢者総合ケアセンターこぶし園名誉園長	大学	22名
冬期交通安全講習会	教職員 学生	R1.11.19	矢島賢一 氏 長岡警察署交通課安全教育係長	学生委員会	学生 12名 教職員 20名
長岡崇徳大学 開学記念講演会	教職員 学生	R1.11.30	坂本すが 氏 元 日本看護協会会長 東京医療保健大学副学長	総務課	1年生、教職員、 行政、病院 関係計 121名
FD 研修講演会 超少子高齢化での私立大学の使命	教職員	R2.2.28	山本正治 氏 新潟医療福祉大学学長	FD 委員会	30名
オンライン授業にかかわるあれこれ～Zoom の利用と諸注意～	教職員	R2.4.27	斎藤 有吾 氏 新潟大学教育戦略統括室	教務・学生課	教職員全員
インドネシアにおける看護師育成 と医療制度～インドネシアから見た 日本の文化	教職員 学生	R2.6.26	アグネス・マリワティさん、スルガ・ ディアン・ノフィタさん 三之町病院 EPA 看護師	国際交流委員会 キャリアデザイン I の授業にて	1年生 58名 2年生、教職員 オンライン
看護大学一日体験入学 キャリアデザイン	高校生	R2.8.29	三浦一二三 氏 長岡中央総合病院 専門看護師	R2 新潟県高大連 携促進支援事業	高校生 20名 学生 2名
子育てにおける愛着形成について	市民（子育て支援）	R2.9.12	稲月まどか 氏 新潟信愛病院 医師	R2 新潟県大学魅力 向上支援事業	市民 48名 学生 3名
キャリア支援学習会	教員	R2.9.16	斎藤 智 氏 新潟青陵大学准教授	キャリア支援委員会	キャリア支援教 員 5名
知っておこう！ハラスメントについて	教職員	R2.9.25	宮川一二三 氏 ヒューマン・スキル研究所所長	ハラスメント対 策委員会	43名
ボランティア学習会	学生	R2.10・ 12月	中澤典子 氏 ボランティア連合会 室長	ボランティア活 動委員会	1年生 8名、 2年生 6名
高校生の性・こころ・からだの健 康を考える	高校養護教 員等	R2.11.4	竹田太郎 氏 かなざわ鍼灸院（金沢市）	R2 新潟県高大連 携促進支援事業	5名
高校生の性・こころ・からだの健 康を考える	高校養護教 員等	R2.11.27	三部倫子 氏 石川県立看護大学講師	R2 新潟県高大連 携促進支援事業	7名
高校生の性・こころ・からだの健 康を考える	高校養護教 員等	R2.11.4 R2.12.16	須藤寛人 氏 長岡西病院 医師	R2 新潟県高大連 携促進支援事業	9名（2回）
高校生の性・こころ・からだの健 康を考える	高校養護教 員等	R2.12.16	上田昌博 氏 上田クリニック（燕市）	R2 新潟県高大連 携促進支援事業	4名
実習時におけるマナー研修	学生（2年）	R2.12.3	ナース専科	キャリア支援委 員会（オンライン）	37名
看護教育におけるシミュレーショ ン教育（3回実施）	教員	R2.10～ 1月	阿部幸恵 氏 東京医科大学 看護学科長	FD 委員会 （全3回オンライン）	平均 20名/回
看護研究と倫理	教職員、学 生、臨床	R3.1.20	田代志門 氏 東北大学大学院文学研究科 准教授	研究倫理委員会 （オンライン）	62名

6.1.2 本学教員による講演会・出前授業等

(開催順)

研修会名、テーマ等	対象	開催日	教員名	担当部署・担当事業等	参加者数
《看護研究講座》					
・看護研究とは ・看護研究テーマのを見つけ方	看護職	R1.10.19	田邊要補教授	地域貢献委員会	2名
・研究倫理・文献検討 文献検索 ・文献検索の仕方	看護職	R1.10.31	望月紀子教授、 柗川俊明図書館員	地域貢献委員会	5名
・研究計画書の作成 ・量的研究とは	看護職	R1.11.23	田邊要補教授	地域貢献委員会	5名
・質的研究とは	看護職	R1.12.7	高島葉子教授	地域貢献委員会	7名
・抄録作成・発表方法	看護職	R2.1.11	伊藤文子助教	地域貢献委員会	9名
・看護研究とは ・看護研究テーマのを見つけ方	看護職	R2.9.12	田邊要補教授	地域貢献委員会	4名
・研究倫理・文献検討 文献検索 ・文献検索の仕方	看護職	R2.10.10	望月紀子教授 柗川俊明図書館員	地域貢献委員会	5名
・研究計画書の作成 ・量的研究とは	看護職	R2.10.31	田邊要補教授	地域貢献委員会	2名
・質的研究とは	看護職	R2.11.28	高島葉子教授	地域貢献委員会	5名
・抄録作成・発表方法	看護職	R2.12.12	伊藤文子助教	地域貢献委員会	3名
《市民公開講座》					
アルツハイマー病の不思議	市民	R1.9.7	森 啓 学長	地域貢献委員会	18名
次の災害に備えていますか ～今すぐ始めようトイレ対策～	市民	R1.11.5	山崎達枝准教授	地域貢献委員会	7名
初潮を迎える娘のために・母としての プレゼントを考える	市民	R1.11.6	柳原真知子教授	地域貢献委員会	6名
《まちなかキャンパス長岡》講座 家族が認知症になったら	市民	R2.2.26	望月紀子教授	地域貢献委員会	27名
《まちなかキャンパス長岡》まちなか大学 5回連続講座『老後を健幸に生きるための備え』（他2回は外部講師が担当）					
年をとるって、どういうこと？	市民	R2.9.24	袖山悦子教授	地域貢献委員会	16名
互いにやさしい介護	市民	R2.10.8	古澤弘美助教	地域貢献委員会	16名
今から考える終活	市民	R2.10.15	望月紀子教授	地域貢献委員会	16名
《その他講習会》					
福祉施設での看取り（こしじの里）	介護職・ケア マネ・相談 員・看護職、 栄養士等	R3.1.19	広井貴子准教授、桶谷涼子助手	地域貢献委員会	15名 (コロナ禍のため)
《長岡市内小・中学校、県内各高等学校向け出前授業》					
・心肺蘇生体験・AED体験			広井貴子准教授、目黒優子講師、 桶谷涼子助手	入試・広報課	
・みんなで考えるメディアが健康に及ぼす影響、睡眠習慣のすすめ ブルーライトと上手につきあおう			駒形三和子助教	入試・広報課	
・命の授業、思春期の身体の変化、男女交際について、性教育			柳原真知子教授、高島葉子教授	入試・広報課	
・立つこと・歩くこと、生きていること			広井貴子准教授	入試・広報課	
・認知症について知ってみよう			望月紀子教授	入試・広報課	

・医療をうける子どもの“がんばる”を支える看護	加固正子教授、沼野博子助教	入試・広報課	
・成人看護学（急性期看護）～大変だ！お父さんが倒れた！～	広井貴子准教授	入試・広報課	
・高齢者疑似体験	袖山悦子教授、望月紀子教授、 本間美知子講師、角山裕美子助教 多田健一助手	入試・広報課	
・認知症の基本的な知識	袖山悦子教授、角山裕美子助教	入試・広報課	
・知っておきたい 1歳までの発達とお世話	加固正子教授、沼野博子助教	入試・広報課	
・生活習慣病	広井貴子准教授	入試・広報課	
・がんについて（予防や看護）	広井貴子准教授	入試・広報課	
・あなたにもできる！心肺蘇生	広井貴子准教授、目黒優子講師、 伊藤文子助教	入試・広報課	

6.2 広報活動

6.2.1 各種広報物の作成

2019年度

- ・「大学案内 2020」 第 I 期生の学生の協力のもと製作した。学生のページを充実させた。
年間資料請求数：1098 件

2020年度

- ・「大学案内 2021」 前年度作成の大学案内が看護大学と一目で分からなかったとの意見から、看護大学らしい図柄に変更して作成した。年間資料請求数：1495 件

6.2.2 ホームページの管理・運営

- ・2020年9月よりホームページのリニューアルを図りイメージアップを図った

6.2.3 オープンキャンパスの実施

- ・2019年度オープンキャンパス 全10回実施 動員数計221名
- ・2019年度8月以降は経験豊富な専門業者のアドバイスを仰ぎ、企画・運営することとした
- ・アクセス数を増やすためインターネット環境を改善した
- ・2020年度オープンキャンパス 全7回実施（コロナ禍のため、4回中止となった）
動員数計258名
- ・コロナ禍でOC参加の制限が見込まれたことから、YouTubeで視聴可能な動画を制作し、アクセス数を確保した（WEB版オープンキャンパスとして開催）
- ・コロナ禍で病院での看護体験が軒並み中止となったことから、本学への看護体験申し込みが増えた。2高校の看護体験を本学で実施した。

6.2.4 進路相談会等への参加

アドバンスパートナー、キッズコーポレーション、さんぽう、マイナビ (Web)、ライセンスアカデミー、高等教育コンソーシアムにいがた合同進学説明会、ライオン企画大学フェア等

6.2.5 高校教諭対象大学説明会の実施

- ・2019年度：5月29日実施 参加数11名
- ・2020年度：6月16日実施（コロナ禍のため、感染予防を十分とって対面開催）

参加数 15 名

- ・2020 年度新潟県高大連携促進支援事業に採択
8 月 3 日実施 『看護大学における高大連携の在り方を考える会』
高校と大学との接続教育－看護大学モデルの 1 案－ 講師：中村悦子教授（学部長）
看護大学との高大連携をどう進めるか 講師：鷲尾雄慈氏（県立長岡向陵高校 校長）

6.2.6 メディア広報、展示会

2019～2020 年度

(新聞)

- ・『看護系の長岡崇徳大学が開学』(R1.4.5 朝日新聞朝刊 他)
- ・『長岡崇徳大が子育て支援事業』(R2.11.19 新潟日報朝刊)
- ・『8050 親子 孤立死広がる』コメント：斎藤まさ子教授 (R2.6.7 毎日新聞朝刊)
- ・『看護師への一步 着実に』2 年生の看護実習 (R3.3.4 新潟日報朝刊)
- ・地ラボニイガタ「コロナ禍におけるメッセージ」(新潟日報) I 期生(学生) 渡邊花梨(R2.8)
「まちなかキャンパス長岡学生交流分科会及び NaDeC 学生委員」(新潟日報)
I 期生(学生) 我伊野綺星 (R2.12)

(雑誌等)

- ・広報「いずもざき」(令和元年 11 月号) 特集「出雲崎」と「おけさ」～800 年の歴史を見つめて～ いずもざきおけさ全国大会優勝 I 期生(学生) 渡邊花梨
- ・看護学教育－新時代の潮流に臨む 中村悦子教授(学部長) リバーバンクレポート第 30 号

(その他)

- ・YouTube チャンネル開設、LINE アカウント開設
- ・越後交通路線バス、新潟交通路線バス 高校を循環する路線を対象に車内放送開始
- ・テレビ広告：スポット 15 秒 CM の実施
- ・おぢやしごと未来塾 出展 (R1.12.10、R2.12.8)
- ・ながおか若者しごと機構「長岡しごと体験ランド」出展 地域貢献委員会他
『ナースのおしごと』新生児だっこ体験、聴診器体験、車椅子体験、AED 体験
教職員 8 名参加 (R2.1.10) 小学校低学年対象：参加者 60 名
令和 2 年度は対面式が中止となり、本学学生による「看護のおしごと」動画を制作した。
- ・新潟日報社主催：福祉・介護・健康フェア出展 (R1.12.10 ハイブ長岡)
広報委員会、入試・広報課 他 「災害看護」をテーマとした出展、実演
災害食、三角巾の使い方、段ボールトイレ、緊急用簡易担架レスキューボードの紹介

Ⅶ 研究活動

7.1 研究活動成果・社会貢献 (2020年度実績のみ)

7.1.1 書籍 (著書)

渡邊克義：(単著)『ポーランドの歴史を知るための55章』(明石書店、2020年)

板山稔：(共著)新版精神看護学，中央法規出版，第2部第7章摂食障害患者の看護

山崎達枝：(共著)・松井豊編著 山崎達枝：看護職員の惨事ストレスとケア 災害・暴力から心を守る 62-74、94-96、111-116. 2020年10月1日 朝倉書店

7.1.2 研究論文

7.1.2.1 研究論文・筆頭

齋藤まさ子、本間恵美子、内藤守、田辺生子、小林理恵、佐藤亨 (2020) 新潟青陵学会誌 13(2):1-13. ひきこもり家族教室の実践と評価～ルーブリックを用いてプログラムの有効性を探る～ (査読有り)

大崎美奈子：長岡崇徳大学研究紀要 1:11-17

看護学実習において学生が学習困難を感じた時の態度構造に関する研究 (査読なし)

多田健一：長岡崇徳大学研究紀要『日本におけるACP (アドバンス・ケア・プランニング) 研究の文献レビュー 療養者本人の意思の尊重の視点から』(査読なし)

7.1.2.2 研究論文・共著

安田裕子、倉島幸子、草野純子、牧野美樹 (2020) 文化情報研究第1号：76-89 安楽死に関する質問調査を手掛かりに死生観を育む看護教育の検討—スピリチュアリティの視点からの考察— (査読なし)

前川絵里子、平澤則子、飯吉令枝(2020) 難病保健活動を担当する保健所保健師の役割の認識，日本難病看護学会，25(2)，p127-141 (査読有り)

糸井志津乃、安齋ひとみ、林美奈子、板山稔、他 (2020) 日本公衆衛生雑誌 67 (7)：442-451. 病院で活動しているがんピアサポーターが大事にしていること (査読有り)

川内健三、板山稔、風間眞理 (2020) 日本精神保健看護学雑誌 29 (2)：29-39. 非同意で精神科病棟に初回入院した患者への熟練看護師の入院時の関わり (査読あり)

伊藤正洋：Kazuo Furukawa, Tatsuro Suzuki, Hajime Ishiguro, Hiroshi Morikawa, Keiko Sonoda, Kenichi Iijima, Masahiro Ito, Osamu Hanyu, Hirohito Sone. (2020) Endocr J. 2020 67(6):585-592. Prevention of postprandial hypotension-related syncope by caffeine in a patient with long-standing diabetes mellitus (査読あり)

西上あゆみ、山崎達枝、久保田聡美 (2020) 日本の病院看護部の災害への備え意識の基礎的研究 日本看護科学学会 (査読あり)

本間美知子：原著：日本放射線看護学会誌

福島原発事故による県外避難者の重大ライフイベントが主観的ストレス度に及ぼした相対的影響 2020、vol 8 (1) p11～21 (査読あり)

7.1.3 その他原稿

袖山悦子：専門性の高い看護職員の育成検討会報告書 R2.3 共著

報告書メンバー/県内看護大学代表者、県内病院看護管理者、新潟県看護協会、訪問看護ステーション協議会、新潟県看護教員の会、県福祉保健部医師・看護職員確保対策課

7.1.4 学会・研究会発表

金澤咲子、金子史代 (2020) 第51回 日本看護学会 (2020年度) 看護教育 (remote)

学生が臨地実習で関節リウマチ患者を捉える視点の検討

加藤千春、金子史代 (2020) 第51回 日本看護学会 (2020年度) 慢性期看護 (remote)

看護師の経験年数による虚血性心疾患患者への生活指導の実際と課題の検討

袖山悦子、星野洋子、竹内真奈美 (2020) 日本看護科学学会:看護職員認知症対応力向上研修受講後の自施設で実施した研修成果から見えた課題 (査読付き)

桶谷涼子、中村悦子、小島さやか、内山美枝子、袖山悦子、池田浩 (2020) 日本看護科学学会：年代別にみた看護師のモチベーションの源泉—自己価値充足モデルからの検討— (査読付き)

小島さやか、中村悦子、内山美枝子 (2020) 第24回日本看護管理学会学術集会 (WEB) 病院に勤務する看護職の年代別モチベーション

沼野博子・加固正子 (2020) 第68回日本小児保健協会学術集会 (WEB)

小児に関わる看護師のブリパレーションの認識や実践に対する介入研究の動向

齋藤まさ子、船越明子、Roseline Yong(2020) 第9回日本公衆衛生看護学会学術集会(12月25日～1月24日、オンライン開催)ひきこもる人が訪問支援を受けてから自分らしい働き方を見出すまでの心理的变化

Akiko Hunakoshi, Masako Saito, Roseline Yong(2020) 24th World Congress of the International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions(Poster) Process of outreach services for people with hikikomori(social withdrawal)by expert workers

山崎達枝：日本の病院看護部の災害への備え意識の基礎的研究

目黒優子：離島漁村地域に暮らす高齢者の食物アクセス・食品摂取の多様性の実態(会議録)

沼野博子、加固正子：小児に関わる看護師のプレパレーションの認識や実践に対する介入研究の動向 第67回日本小児保健協会学術集会 2020年11月6日

角山裕美子：訪問看護師による在宅療養高齢者を支える家族へのEOLケア(第24回日本老年看護学会学術集会・仙台)

7.1.5 社会貢献

中村悦子：R2 新潟県高大連携促進支援事業『高大連携を目指した「高校教員と大学教員との意見交換会」及び「高校生の看護大学1日体験入学」』主担当者

柳原真知子：長岡市小学校中学校出前講座 「いのちの授業」講師

柳原真知子：R2 新潟県高大連携促進支援事業「思春期プレコンセプションケア支援事業」主担当者、看護大学一日入学体験講師

金子史代：看護大学一日入学体験講師

倉島幸子：日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護技術学会、日本看護診断学会、日本看護シミュレーションラーニング学会各会員

袖山悦子：専門性の高い看護職員の育成検討会

東急セミナー「障害者及び認知機能の衰えた方への対応に関する事例共有会」講師

袖山悦子：長岡市中学校出前授業 高齢者疑似体験、認知症について 講師

袖山悦子：まちなかキャンパス長岡「まちなか大学」講座『年を取るってどういうこと?』講師

袖山悦子：異業種交流会「目指したい老後について」講師

加固正子：日本小児看護学会、日本小児保健研究会、日本看護科学学会、日本災害看護学会、新潟小児看護研究会 各会員

加固正子：県立柏崎高等学校出前授業 乳児の育児体験 講師

加固正子：「障がい児自立支援と看護教育」講義 対象：自立支援協会

高島葉子：(公社)新潟県助産師会 災害対策委員長、にいがた周産期メンタルヘルス研究会事務局長

高島葉子：R2 年度新潟県大学魅力向上支援事業「母子・家族、支援者が共にあゆむ周産期メンタルヘルスに関する支援事業」代表者、子育て支援事業講演会、パパママサークル講師、高大連携事業「高校生の性・こころ・からだの健康を考える研修会」講師

高島葉子：長岡市小学校中学校出前講座 「いのちの授業」講師

高島葉子：地ラボの学生の新潟日報紙への掲載、看護系タスクフォース部会の通信掲載での学生指導

高島葉子：長岡崇徳大学看護研究講座・講師 (質的研究)

高島葉子：(公社)新潟県助産師会 災害対策マニュアル 令和3年3月発行

高島葉子：日本助産学会誌 査読中

高島葉子：(公社)日本看護協会会員、(公社)日本助産師会会員、(公社)新潟県助産師会会員、日本助産学会会員、日本母性衛生学会会員、日本思春期学会会員、日本看護科学学会会員、日本母乳の会会員、新潟県思春期学会会員、新潟県母性衛生学会会員

齋藤まさ子：にいがた周産期メンタルヘルス研究会幹事、子育て支援事業の講演会のシンポジウム座長

齋藤まさ子：新潟看護ケア学会査読委員

齋藤まさ子：日本家族看護学会、日本公衆衛生看護学会、日本質的心理学会、日本看護学会、日本精神保健看護学会、カウンセリング学会、不登校ひきこもり研究会、新潟周産期メンタルヘルス研究会、子育て支援事業メンバー、M-G-T-A研究会、新潟家族看護研究会、新潟精神看護研究会 各会員

齋藤まさ子《ひきこもりの啓発、支援に関するもの》

2019,2020年に厚労省から市町村に向けてひきこもり相談窓口のワンストップ化と支援のためのプラットフォーム立ち上げに関する通達が出ていることから、

★講演：【主催】糸魚川保健所、新潟市社会福祉協議会、新潟県介護支援専門員協会、阿賀野市健康推進課、新潟市南区社協、長岡保健所、十日町市民活動ネットひとサポ

★支援者研修会：【主催】新潟県精神保健福祉センター、胎内市健康づくり課、阿賀野市健康推進課、見附市健康福祉課、上越市青少年健全育成センター、石川県こころの健康センター、南魚沼子ども若者支援センター、魚沼市地域振興局、新潟市西蒲区社協、津南町

齋藤まさ子：新潟県精神保健福祉協会新潟市支部監事

齋藤まさ子：労働局技術審査委員長(にいがた就職氷河期世代活躍支援に関するもの：3回)

齋藤まさ子：雑誌「厚生福祉」(時事通信社)に「進言」掲載

齋藤まさ子：毎日新聞(2020,6,7)1面に8050問題に関するコメントが掲載

齋藤まさ子：精神障害者家族会「ぴあふぁみりい」、ひきこもり家族会「KHJにいがた秋桜の会」

齋藤まさ子：長岡摂食障害家族会「ひまわりの会」の顧問

齋藤まさ子：南魚沼市ひきこもり家族のつどいファシリテーター（3回）

齋藤まさ子：津南町ひきこもり家族会ファシリテーター(1回)

齋藤まさ子：新潟市南区ひきこもり家族会ファシリテーター(2回)

齋藤まさ子：新潟市ひきこもり相談支援センター主催家族会（3回）

齋藤まさ子：全国のひきこもり相談支援センター（各県・政令指定都市に1か所）に科研研究結果から「熟練支援者から学ぶ ひきこもり状態にある本人及び家族への訪問支援」を冊子にし、送付（研究分担者）

齋藤まさ子：出前授業 「“聴く”こと」講師

齋藤まさ子：ボランティア活動（各種家族会にアドバイザーとして参加）20回

齋藤まさ子：長岡崇徳大学高大連携促進支援事業「高校生の性・こころ・からだの健康を考える研修会」講師

田邊要補：日本看護学教育学会評議員、日本看護学教育学会査読委員、新潟精神看護研究会運営委員、日本災害看護学会第23回年次大会学内企画委員

田邊要補：日本看護学教育学会誌の査読（2編）、日本看護学教育学会第30回学術集会の査読（5編）

田邊要補：日本精神保健看護学会、日本看護学教育学会、日本公衆衛生学会、新潟看護ケア研究学会、新潟精神看護研究会 各会員

田邊要補：長岡療育園看護師の研究指導

田邊要補：長岡崇徳大学看護研究講座・講師2回（看護研究テーマのを見つけ方、研究計画書の作り方、量的研究）

田邊要補：長岡崇徳大学 看護大学一日入学体験講師

望月紀子：まちなかキャンパス長岡講座『家族が認知症になったら』講師

望月紀子：長岡市中学校出前授業 高齢者疑似体験、認知症の基本的な知識 講師

望月紀子：新潟県立見附高等学校出前授業「認知症について知ってみよう」講師

飯吉令枝：日本ルーラルナーシング学会査読委員、新潟看護ケア研究学会誌査読委員

飯吉令枝：日本看護科学学会、日本地域看護学会、日本公衆衛生学会、日本公衆衛生看護学会、日本在宅ケア学会、聖路加看護学会、日本ルーラルナーシング学会、日本難病看護学会、日本看護学教育学会 各会員

飯吉令枝：長岡医療と福祉の里ボランティア連合会「感染症についての知識を高めよう」講師

飯吉令枝：長岡市介護予防・日常生活支援総合事業評価のためのオブザーバー(3回)

飯吉令枝：医学書院「保健師国家試験問題集」の解説

板山稔：日本アディクション看護学会査読委員、日本こころの安全とケア学会査読委員

板山稔：日本精神保健看護学会、日本アディクション看護学会、日本精神障害者リハビリテーション学会、日本家族看護学会、日本公衆衛生学会、日本看護研究学会、日本看護科学学会

板山稔：新潟県看護協会看護学会論文指導2回

板山稔：新潟県養護教員研究協議会高等学校部魚沼支部研修会、

板山稔：長岡崇徳大学高大接続・高校教員意見交換会担当

板山稔：長岡崇徳大学高大連携促進支援事業「高校生の性・こころ・からだの健康を考える研修会」講師、看護大学一日入学体験講師

板山稔：社会福祉法人めぐはうす評議員

伊藤正洋：公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 医学系 OSCE 委員会委員

伊藤正洋：2020年8月6日新潟慢性心不全 web セミナー座長、2021年1月18日第2回 Niigata HF WEB Seminar 座長

伊藤正洋：日本内科学会、日本循環器学会、日本医学教育学会 各会員

伊藤正洋：新潟大学医学部医学科3年生臓器別講義（循環器内科）2回、11月20日大塚製薬社内研修会講師、2月25日トーアエイヨー社内研修会講師、3月25日令和2年度佐渡教育委員会/ジュニアスポーツクラブ優良指導者講習会講師

伊藤正洋：長岡西病院院内勉強会講師（5月、7月、3月）、新潟大学医学部医学科 PCC-OSCE 外部評価者

山崎達枝：一般社団法人日本災害看護学会理事、一般社団法人日本災害医学会評議員

山崎達枝：一般社団法人日本災害医学会 第26回日本災害医学会総会・学術集会

山崎達枝：一般社団法人日本災害看護学会、一般社団法人日本災害医学会 査読委員

山崎達枝：県立高田南城高等学校出前授業

広井貴子：日本看護教育学会、日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本緩和医療学会、日本看護協会、日本介護福祉学会 各会員

広井貴子：長岡市小学校・中学校出前授業 心肺蘇生体験、AED体験 講師

広井貴子：茨城県実習指導者講習会 非常勤講師 7回

広井貴子：茨城県専任教員養成講習会 非常勤講師 2回

広井貴子：看護大学一日入学体験講師

広井貴子：社会福祉法人小越会・特養こしじの里 「福祉施設での看取り」講師

本間美知子：新潟県看護協会長岡支部委員

本間美知子：新潟県厚生連医療センター「特定看護師」第3者評価委員

大橋洋子：新潟県看護協会 論文指導1回

目黒優子：長岡市小学校・中学校出前授業 心肺蘇生体験、AED体験 講師

目黒優子：新潟県立十日町病院看護部 研究指導（対面、オンライン）

目黒優子：みつけ健康アンバサダー2回

古澤弘美：まちなかキャンパス長岡『年を取るってどういうこと?』講師
 古澤弘美：新潟県立看護大学大学院講師
 古澤弘美：長岡市立江陽中学校出前授業「健康な生活習慣」講師、崇徳厚生事業団やろうゼプラン講師、長岡市介護予防研修会講師
 古澤弘美：看護大学一日入学体験講師
 藤田勇：新潟県看護ケア研究学会・日本心身健康科学会・日本看護学教育学会・日本精神保健看護学会 各会員
 藤田勇：五日町病院研究指導3回（対面、メール併用）
 駒形三和子：日本公衆衛生学会、日本公衆衛生看護学会、日本保健福祉学会、日本難病看護学会、日本農村医学会 各会員
 駒形三和子：小学生対象出前授業 「睡眠習慣のすすめ」講師
 駒形三和子：新潟産業大学 経済学部（経済経営学科）通信教育課程 非常勤講師（「人間の理解（育児と介護）」授業コンテンツ撮影）
 駒形三和子：看護大学一日入学体験講師
 伊藤文子：長岡崇徳大学子育て支援事業担当者 パパママサークル講師
 伊藤文子：小児看護学会、家族看護学会、日本看護学教育学会、新潟看護ケア学会、M-GTA 研究会 各会員
 伊藤文子：長岡崇徳大学看護研究講座・講師（抄録作成・発表）
 伊藤文子：看護大学一日入学体験講師
 沼野博子：新潟小児看護研究会役員、日本災害看護学会第23回年次大会学内企画委員
 沼野博子：日本小児保健学会、日本小児看護学会、日本看護学教育学会、日本シミュレーションラーニング学会、日本災害看護学会、小児の在宅医療を考える会、日本小児在宅医療支援研究会、HPS 協会、小児がん看護学会
 沼野博子：しゃんしゃん育ちの会（医療的ケア児と家族の会）ボランティア
 沼野博子：県立柏崎高等学校 乳児の育児体験 模擬授業補助
 大崎美奈子：日本看護学会 日本看護学教育学会 各会員
 角山裕美子：長岡市中学校出前授業 高齢者疑似体験、認知症の基本的な知識 講師
 角山裕美子：県立長岡大手高校 1日大学入学体験 高齢者看護学体験 講師
 多田健一：長岡西病院卒後3年目研修『事例研究のまとめ方』 講師
 多田健一：長岡市中学校出前授業 高齢者疑似体験 補助

7.1.6 その他（受賞等）

齋藤まさ子：2020年度日本家族看護学会より2018年に学会誌に掲載された論文（ファーストオーサー）のAbstractを国際誌「Journal of Family Nursing」第25巻4号（インパクトファクター1.889）に掲載推薦された

7.2 外部資金の獲得関連

7.2.1 科学研究費助成事業（日本学術振興会）

7.2.1.1 科学研究費補助金、学術研究助成基金助成金

科研費・代表

研究者名	研究課題名	研究種目	研究期間（年度）
田邊 要補	日本語版 ISMI-10 尺度の信頼性・妥当性：地域で支えるためのアセスメントツール	基盤(C)	2017 - 2020
飯吉 令枝	豪雪地域高齢者の運転免許返納後の健康・生活行動の維持とその要因に関する縦断的研究	基盤(C)	2018 - 2020
沼野 博子	小児診療所におけるプレバレーション定着に向けたアクションリサーチ	研究活動スタート支援	2019 - 2020
角山 裕美子	在宅終末期高齢者が望む最期を迎えるための意思決定支援モデルの開発	若手研究	2020 - 2022

科研費・分担

研究者名	研究課題名	研究種目	研究期間（年度）
高島 葉子	助産師基礎教育から臨床への連動を意識した分娩後出血に関する教育プログラムの開発	基盤(C)	2017 - 2020
斎藤 まさ子	児童・思春期精神科病棟における地域包括ケアの視点を取り入れた教育プログラムの開発	基盤(C)	2017 - 2020
柳原 眞知子	乳幼児の個別性やニーズに対応できる「災害に備えた保育施設備蓄システム」の開発	基盤(C)	2018 - 2020
中村 悦子	シニア看護職への効果的マネジメントに向けたワークモチベーションの実態と源泉の解明	基盤(C)	2019-2022
袖山 悦子	シニア看護職への効果的マネジメントに向けたワークモチベーションの実態と源泉の解明	基盤(C)	2019-2022

7.2.1.2 その他外部資金

山崎達枝：JR 西日本あんしん社会財団平成 29 年度助成事業

山崎達枝：技術開発プロジェクト（東京電力ホールディングス・長岡技術科学大学）

沼野博子：公益財団法人 セコム科学技術振興財団学術集会および科学技術振興事業助成（日本災害看護学会第 23 回年次大会学内企画委員として申請書作成を分担）

VIII 図書館

8.1 図書館

8.1.1 2019年度（令和元年度）利用・受入集計

1. 利用集計

① 貸出

利用者区分別利用集計

利用者区分	登録人数	貸出回数(冊)	貸出延べ人数(人)
学部学生	43	131	107
教職員	69	794	316
専門学校(学生・先生)	121	74	39
崇徳厚生事業団	30	1	1
看護師	9	7	2
学外者	5	3	1
合計	277	1010	466

② 文献複写

NACSIS-ILL(大学間相互貸借システム) 102件

国立国会図書館遠隔複写サービス 9件

2. 受入集計

① 図書

事項	執行計画冊数	執行冊数
図書(新刊)	500	253
図書(蔵書充実)	600	686
図書(学生希望図書)	300	123
図書(視聴覚資料)		6
合計	1,400	1,068

② 図書(研究費)

	人数	冊数	金額
研究費購入図書	10	118	402,723

③ 雑誌・新聞

事項	執行計画誌数	執行冊数
専門雑誌(一般雑誌含む)	33	415
新聞	5	5

④ 電子資料

事項	執行計画誌数	執行数
電子ジャーナル	2	2
文献検索データベース	2	2

⑤ 寄贈図書

	和書	洋書	合計
寄贈図書	1,098	24	1,122

⑥ 蔵書数

	和書	洋書	合計
創立時購入分	3,770	590	4,360
今年度図書費購入分	1,068	0	1,068
今年度研究費購入分	118	0	118
今年度寄贈受入分	1,098	24	1,122
合計	6,054	614	6,668

※ 2019年度増加冊数 2,308冊

8.1.2 2020年度（令和2年度）利用・受入集計

1. 利用集計

① 貸出

利用者区分別利用集計

利用者区分	登録人数	貸出回数(冊)
学部学生(1年生)	58	306
学部学生(2年生)	43	280
教職員	80	1,320
専門学校(学生・先生)	151	221
崇徳厚生事業団	34	18
看護師	16	4
学外者	9	15
合計	391	2,164

② 文献複写

NACSIS-ILL(大学間相互貸借システム) 93件

2. 受入集計

① 図書

事項	執行計画冊数	執行冊数
図書(新刊)	500	418
図書(蔵書充実)	600	428
図書(学生希望図書)	300	173
図書(視聴覚資料)		49
合計	1,400	1,068

② 図書(研究費)

	人数	冊数	金額
研究費購入図書	18	160	445,396

③ 雑誌・新聞

事項	執行計画誌数	執行冊数
専門雑誌(一般雑誌含む)	33	458
新聞	5	

④ 電子資料

事項	執行計画誌数	執行数
電子ジャーナル	2	2
文献検索データベース	2	2

⑤ 寄贈図書

	和書	洋書	合計
寄贈図書	1,102	22	1,124

⑥ 蔵書数

	和書	洋書	合計
創立時購入分	3,770	590	4,360
前年度増加分	2,284	24	2,308
今年度図書費購入分	1,068	0	1,068
今年度研究費購入分	160	0	160
今年度寄贈受入分	1,102	22	1,124
合計	8,384	636	9,020

※ 2019年度増加冊数 2,330冊

8.2 図書館運営委員会

委員長：渡邊 克義 教授 2019 年度

金子 史代 教授 2020.9～

委員：2019 加固教授、袖山教授、伊藤助教

2020 金子教授、加固教授、渡邊教授、大橋講師、角山助教、多田助手

事務局：柁川担当

活動内容：

<委員会目標>

1. 図書館利用促進(学生、教職員)
2. 教育・研究活動への利便性促進
3. 崇徳厚生事業団及び地域住民への広報

<目標別計画・実績>

1-1) 図書館運営委員会を定期的を開催する

2020 年は委員会を 10 回開催した。

1-2) グループ学習室の利用環境を整える

特に国家試験の学習がグループでもできるように9月から10月に図書館の端の一隅に国家試験関連文献用の書架を配置し学習室を設置した。国家試験対策委員と連携し、問題集等、国家試験関連文献を受け入れた。また、2月には大学父兄会から国家試験対策用の図書を寄贈していただき、学習室としての環境を整備した

1-3) 利用状況を月単位で集計し、教授会、図書館便りで公表する

10 月から図書館利用者を月単位で集計した。利用者の確認は、時間を決め、その時間帯の利用者を、学生、教員、専門学校生、学外者にかけてカウントした。10月の利用者が1055人と最も多く、11月、12月、2月は800～900人、1月と3月は400～500人であった。

1-4) 図書館だよりの発行；学生、教職員による年2回の定期的な発行をする

4 月から学生と図書館運営委員会の教職員が一緒になって図書館の専門図書や雑誌に関するニュースなどについて、気軽に読める図書館だよりの検討を始め、1月に紙面で発刊した。初めての図書館だよりであったため、編集にかかわる学生や教職員は十分な準備ができなかった。また年1回の発刊にとどまった。

2-1) 教育研究環境を充実させるためのニーズ調査を行う（学生、教員）

・学生向けのアンケート用紙を作成して、1年生は11月20日、2年生は11月18日にアンケートを実施した。1・2年生93枚配布、回収87枚（回収率93%）。結果を受けて検討を行い、図書館内の文房具類の設置の希望についてはホチキスやハサミなど設置した。館内で飲食をしている学生には、図書館の環境保持について説明し指導した。また、土曜日の図書館開館を求める記載が多かったため、試験的に後期試験に合わせて土曜日の開館を3回行った。1月30日は8名、2月20日は2名、3月6日は9名の利用があり、利用時間はほぼ1日滞在していた学生が多かった。11月と3月に学生へのインタビューの予定であったが今年度は実施できなかった。

・教員向けのアンケートは3月2日にメールで全教員へ発信し教員のニーズを1部であるが把握できた。回答10名（回収率37%）

アンケート結果の公表は第6回会議で、教員には紙面で公表した。学生にはポータルサイトで行うことが決定したが、行っていない。

2-2) 図書館の電子利用を促すための環境を整える

教員対象の「文献検索研修」は、時期を逸してしまい実施計画を立てることができなかった。次年度の課題とする。

2-3) 電子資料(電子ジャーナル・文献DB)の見積もりを入手し、導入申請を行う

3月の教員アンケートの結果では、本学に導入されているデータベース(CiNi, 医中誌Web版, メディカルオンライン)の使用方法を熟知していると回答したものが多く、使用方法の説明が必要と回答したものはCiNiについての数名であった。

3-1) 学外の利用者数を記録し、月別集計を行う

10月から学外の図書館利用者を月単位で集計した。10月から3月までの月ごとの利用者は平均6人であり、総数36人であった。

3-2) 大学図書館への希望調査を崇徳事業団の各組織に実施する

委員会での課題であることを確認していたが実施には至らなかった。

・図書館企画行事（図書館ツアー・著書・研究紹介）

* 図書館ツアーとして、3月5日(金)昼休みに第1回目のLibrary Guideを開催した。題目は「情報検索入門1 図書館の資料について」であり、参加者は1年生4名であった。

* 著書・研究紹介として、3月に大学関係者の「著者を招いた読書会」を企画したが、学生が春休みに入っていたため次年度の行事とすることにした。

- ・領域別図書選定

領域別資料選定の冊数は 2021.3.17 現在で 343 冊であった。合計金額は 948,029 円であった。

Ⅸ 学生関係

9.1 入学定員・収容定員

単位(人)

入学定員	収容定員
80	320

9.2 選抜区分別募集定員 (2021年度入学者向入試)

単位(人)

入学定員	選抜区分別募集人員						
	特別選抜			学校推薦型選抜		大学入学 共通テスト 利用選抜	一般選抜
	総合型 選抜	新潟県 特別選抜	社会人 特別選抜	公募推薦 選抜	指定校 推薦選抜		
80	15		若干人	35		30	

9.3 入学選抜試験選考結果

<選抜試験実施日> 2021年度入試のみ記載

試験区分	実施日
総合型選抜Ⅰ期	令和2年9月26日(土)
総合型選抜Ⅱ期	令和2年10月24日(土)
指定校選抜Ⅰ期、公募推薦選抜Ⅰ期 新潟県特別選抜Ⅰ期、社会人特別選抜Ⅰ期	令和2年11月14日(土)
指定校選抜Ⅱ期、公募推薦選抜Ⅱ期 新潟県特別選抜Ⅱ期、社会人特別選抜Ⅱ期	令和2年12月19日(土)
一般選抜Ⅰ期、大学入学共通テストⅠ期	令和3年2月6日(土)
一般選抜Ⅱ期、大学入学共通テストⅡ期	令和3年2月27日(土)

<受験状況等> 2020年度入試

	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数
特別選抜※		17	17	16	1.06	16
学校推薦型 選抜※	40	25	25	24	1.04	24
一般選抜	40	51	49	47	1.04	18
合計	80	93	91	87	1.04	58

※アドミッションオフィス選抜、推薦型選抜、県特別選抜合計で40人とした
 <受験状況等> 2021年度入試

	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数
特別選抜	15	77	77	61	1.26	24
学校推薦型 選抜	35	24	24	24	1.00	24
一般選抜	30	62	60	57	1.05	26
合 計	80	163	161	142	1.13	74

9.4 在籍学生数 (2021.3.31 現在)

単位(人)

1年生			2年生			3年生			4年生			全学年		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
6	50	56	8	31	39	0	0	0	0	0	0	14	81	95

9.5 学生生活

9.5.1 学生ポータルサイト (Campus Magic)

以下の機能が利用可能である。

- ①休講・補講の確認
- ②大学からのお知らせ
- ③シラバスの閲覧
- ④履修登録
- ⑤講義の出欠確認
- ⑥成績情報の確認
- ⑦授業評価アンケートの回答
- ⑧学習ポートフォリオ
- ⑨投書箱

9.5.2 健康管理と生活相談

- ・入学後に定期健康診断を実施し、結核菌、B型肝炎、感染症などの抗体価検査を実施。
- ・臨地実習前にはワクチン接種を実施。
- ・アドバイザー制(学生生活の指導を行っている。入学時に担当教員が決定)
- ・学生相談室:臨床心理士がこころの相談に応じている
- ・ハラスメント相談窓口の設置

9.5.3 学友会活動

◎年間スケジュール：4月学生総会、8月大学祭（徳樹祭）

2019年度は開学初年度で、前期は学友会組織が無かったことから、「クラス委員」5名により運営し、徳樹祭を8月25日に実施した。後期オリエンテーションの後に、クラス各種委員、学友会役員の選定を行った。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大、社会情勢から、4月オリエンテーション後から6月19日まで登校できず、登校後も感染状況から徳樹祭、サークル活動は中止せざるを得なかった。12月になって漸く球技大会と新入生歓迎会が実施された。

◎サークル活動（2021.3月現在） バドミントン、茶道、球技、ダンス、ボランティア
なお、要件を満たせば、サークル設立の申請が可能となっている。

9.5.4 学生委員会実績報告（抜粋）

<2019年度>

1. 学友会に関する規則等が未整備だったため、学友会規約、学友会選挙規則、学友会学生団体規約及び部長会規約を制定し、学生に説明・配布した。

2. 前期は学友会組織がないことやクラス各種委員を設定していなかったため、学友会組織の設立やクラス運営が円滑に行われるまでの間「クラス委員」を設定し、5名の学生で構成・運営した。学友会行事の一つである徳樹祭（大学祭）を8月25日に実施した。大学祭の名称は公募をし、4つの中から「徳樹祭」が選出された。学生にとっては初めての大学祭であり、多くの面で教職員がサポートして、企画・運営した。後期オリエンテーションの後に、クラス各種委員・学友会役員の選出を行った。

3. 緊急の連絡方法についてはフローチャートを作成し、学生及び教職員に周知した。天候による授業休講の扱いについても明文化し、学生および教職員に周知した。その後、「天候による授業休講の扱い」は1回改正した。

4. 学生と教職員間との親睦を図るため、5月10日A棟4階喫茶ラウンジで新入生歓迎会を行った。参加者は学生32名（43名）、教員21名（22名）、職員10名（13名）であった。

5. 学生から大学に対する要望が少しずつ出てきたので、学生交流会を6月12日4限（14時30分～16時00分）に行った。開催の趣旨が学生からの要望を吸い上げることだったので、要望が主ではあったが、意見として大学の「良いところ」もあり、嬉しく感じた。学生

からの要望に対しては、7月26日（金）に各担当者が回答した。

6. 学生からの意見・提案等をくみ取り、大学が学生に対して回答を行うため「学生意見箱」を設置した。

7. 保護者会を企画し、役割やスケジュールを作成した。その過程で「後援会」の設立の必要性が浮上したため、後援会設立総会および保護者会を同日（10/12）に行うことで計画した。後援会会則については、7月中旬に保護者宛に案内文および後援会会則を発送した。10月12日（土）に後援会設立総会および保護者会を行った。16名の保護者が参加した。

8. 冬期間における安全運転および事故防止を図る目的で、11月19日に長岡警察署交通課による冬期交通安全講習会を実施した。学生12名、教職員20名が参加した。

<2020年度>

1. 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月7日から学生は自宅待機とした。6月22日からの登校に向けて、学生委員会と保健衛生委員会、教務委員会、事務局と連携をして、講義室の配置、図書館、食事時の座席の確保、手指消毒の設置、清掃方法について対応した。また、対面授業に向けて「対面授業を行う上での注意点」を6月15日にポータルサイトで掲示した。登校後は、食事時間や講義の休憩時間に学生の様子を見ながら適宜声をかけて感染予防行動を促した。9月30日の後期オリエンテーション時に新型コロナウイルス感染対策について学生委員会より再度注意することを促した。

2. 新型コロナウイルスの感染拡大・社会情勢から、学生は4月オリエンテーション後から6月19日まで登校できなかった。登校後も、新型コロナウイルスの関係で、徳樹祭、サークル活動は中止せざるを得なかった。学生と委員が集まって計画する機会が持てず、球技大会と新入生歓迎会が実現したのは12月14日であった。球技大会には教職員チームも参加し、計7チームで行われた。球技大会後、A棟4階喫茶ラウンジで実施した新入生歓迎会には1年生の多くが参加した。学友会役員選挙は、来年度実施の予定である。

3. 2019年度に実施した学生交流会の意見・要望に対し、大学側が「次年度以降の取り組みになります」などと回答したものについての実施状況や進捗状況を事務局長に確認した。回答は8月18日に掲示およびポータルサイトにて回答した。

4. 令和2年度学生満足度・学生生活実態調査用紙を作成した。1年生には12月9日、2年生には12月21日に調査を実施した。全体配布数96人で回収率100%、有効回答率99.0%だった。「大学入学に関する満足度」、「支援体制に関する満足度」、「各施設・設備に関する

満足度」、「学生生活に関する実態」、「学生自身に関すること」についてまとめ、報告した。

5. 学生からの投書は、4月25日1通、5月6日1通、5月9日1通、5月20日1通、1月18日（7月回答）1通、8月7日1通、8月27日1通、10月12日1通の、計8通あった。投書内容に応じて他部門と協力しながら回答した。

編集後記

令和元年度・令和2年度の長岡崇徳大学年報をお届けいたします。本学としては大学開学後初の発刊となります。

本学は平成30年8月の大学設置認可を受け、急ピッチで教育・研究環境の整備に努めて参りました。大学設置にあたり、新潟県、長岡市をはじめとする各市町村、医療法人崇徳会様や社会福祉法人長岡福祉協会様など、関係諸機関からの多大なるご支援により、平成31年4月の開学を迎えることができました。

本来であれば令和元年度が終了した段階での年報作成を行う予定でしたが、長中期計画の策定など、自己点検・評価委員会での意思統一に時間を要したことや、新型コロナウイルス（COVID-19）による諸対応の関係で、単年度の活動結果報告が叶いませんでしたが、ようやくここに2年間分の活動結果をまとめることができました。

本学は令和4年度までが学年進行期間であり、この間は文部科学省への履行状況報告が求められているところですが、完成年度後の認証評価を見据え、改めて本学の魅力や強み、課題について見直すことが求められます。幅広く様々な意見を取り入れ、教職員一体となって課題に取り組んでいくことが大学の発展につながるものと考えます。

本紙の編集にあたり、各委員長や教職員の皆様から多大なるご協力をいただきましたことに感謝を申し上げます。

令和3年8月31日 自己点検・評価委員会

令和元・2年度（合併版） 長岡崇徳大学年報
2021年8月31日発行

編集：長岡崇徳大学 自己点検・評価委員会
〒940-2135 新潟県長岡市深沢町 2278 番地 8
TEL：(0258) 46-6666